



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成17年12月調査分)

景気の現状判断DI

	平成17年9月	平成17年12月	前回調査比
茨城県	48.5	54.1	+ 5 . 6
県北地域	41.2	52.2	+ 1 1 . 0
県央地域	49.6	50.9	+ 1 . 3
鹿行地域	48.1	54.3	+ 6 . 2
県南地域	53.0	60.8	+ 7 . 8
県西地域	50.5	52.5	+ 2 . 0

景気の先行き判断DI

	平成17年9月	平成17年12月	前回調査比
茨城県	51.3	52.7	+ 1 . 4
県北地域	49.6	49.1	0 . 5
県央地域	53.4	52.6	0 . 8
鹿行地域	50.9	52.2	+ 1 . 3
県南地域	54.7	56.9	+ 2 . 2
県西地域	47.7	52.5	+ 4 . 8

平成17年12月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
（1）景気の現状判断D I	4
（2）景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
（1）景気の現状判断D I	6
（2）景気の先行き判断D I	8
3 回答率	1 1
景気の判断理由	1 2
1 景気の現状判断理由	1 2
2 景気の先行き判断理由	2 2
3 その他の意見	3 2

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成17年12月31日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、水海道市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別 業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業		17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成17年12月調査の調査期間は平成17年12月1日から12月27日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が減少したため、5.6ポイント増の54.1となり、平成16年6月調査以来一年半ぶりに、横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

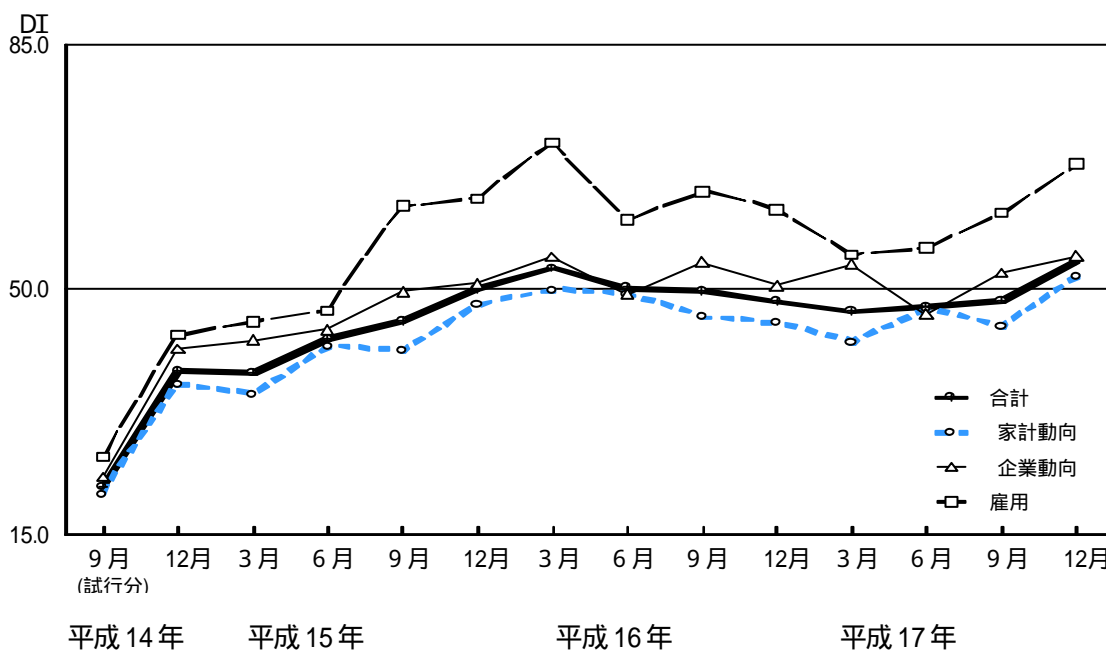
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.3	46.9	47.7	48.5	54.1
家計動向関連	小売関連	45.1	45.4	47.7	47.4	50.7
	飲食関連	41.7	36.8	50.0	45.0	53.6
	サービス関連	46.2	40.1	44.4	40.9	51.5
	住宅関連	47.2	52.8	61.1	58.3	61.1
	企業動向関連	50.6	53.6	46.5	52.4	54.8
農林水産業	製造業	42.9	46.4	43.8	46.9	50.0
	非製造業	50.5	53.6	45.8	50.0	53.2
	非製造業	52.6	55.2	48.3	57.8	58.6
雇用関連		61.5	55.0	56.0	61.0	68.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成16年12月	1.8%	25.3%	43.0%	24.2%	5.8%
平成17年3月	3.2%	18.7%	45.6%	27.6%	4.9%
平成17年6月	0.3%	21.0%	53.5%	19.6%	5.6%
平成17年9月	1.4%	22.0%	51.8%	18.8%	6.0%
平成17年12月	4.5%	29.6%	47.1%	15.8%	3.1%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは、「良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」の構成比が減少したため、9月調査分から1.4ポイント増の52.7となり、前回調査に引き続き、横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは横這いだった。

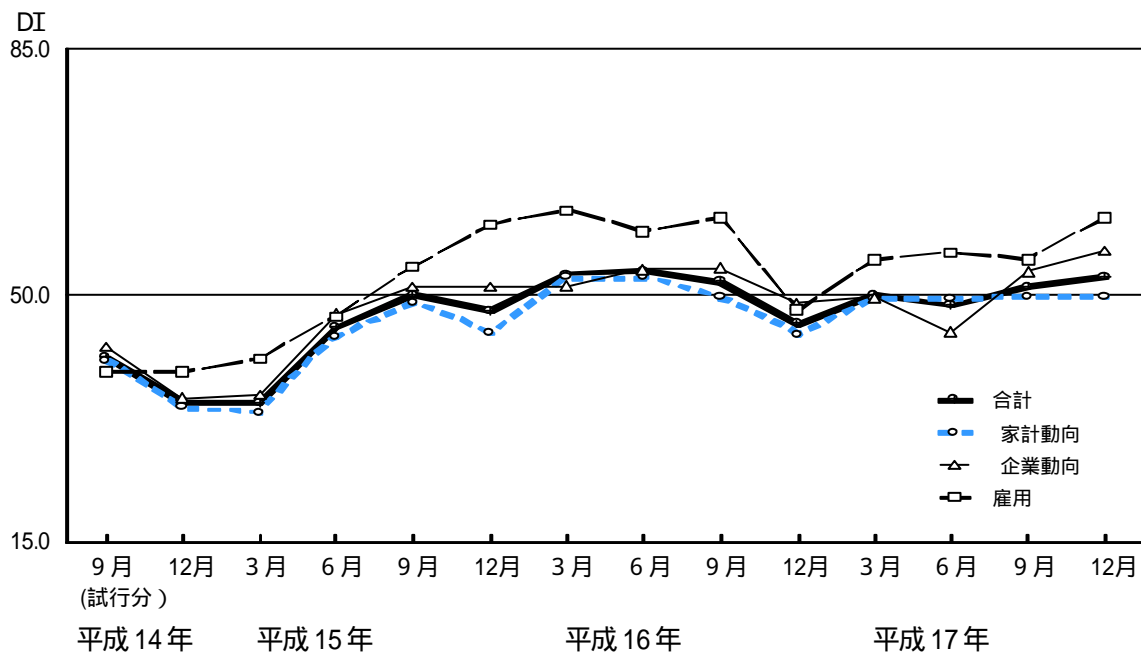
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年 12月	平成17年 3月	平成17年 6月	平成17年 9月	平成17年 12月
合計		46.0	50.1	48.7	51.3	52.7
家計動向関連		44.4	49.6	49.6	49.9	49.9
小売関連		46.2	48.2	50.8	47.8	52.8
飲食関連		40.3	46.1	48.7	47.5	42.9
サービス関連		43.6	51.6	47.8	51.0	48.1
住宅関連		47.2	50.0	58.3	61.1	58.3
企業動向関連		48.8	49.7	44.8	53.3	56.3
農林水産業		53.6	53.6	50.0	40.6	50.0
製造業		48.4	47.9	39.6	52.2	53.7
非製造業		48.3	51.7	51.7	58.6	62.1
雇用関連		47.9	55.0	56.0	55.0	61.0

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成16年12月	0.7%	14.4%	57.8%	22.4%	4.7%
平成17年3月	2.5%	19.8%	56.5%	18.0%	3.2%
平成17年6月	1.4%	17.1%	61.2%	15.4%	4.9%
平成17年9月	1.8%	28.0%	48.6%	17.0%	4.6%
平成17年12月	3.8%	26.8%	48.8%	17.5%	3.1%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.2であり、9月調査分と比べて11.0ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		42.4	42.8	45.2	41.2	52.2
家計動向関連		38.6	36.5	42.1	35.7	51.4
企業動向関連		47.1	52.9	47.1	48.5	51.5
雇用関連		56.3	55.0	60.0	55.0	60.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	10.7%	53.6%	30.4%	5.4%
平成17年3月	0.0%	10.2%	57.6%	25.4%	6.8%
平成17年6月	0.0%	19.3%	49.1%	24.6%	7.0%
平成17年9月	0.0%	15.8%	47.4%	22.8%	14.0%
平成17年12月	5.2%	29.3%	37.9%	24.1%	3.4%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9であり、9月調査分と比べて1.3ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。また、DI値は全県を通じて最も低くなった。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは9月調査分を上回ったが、雇用関連DIは横這いだった。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		49.1	47.3	47.8	49.6	50.9
家計動向関連		45.1	42.9	46.4	46.7	48.0
企業動向関連		55.0	56.7	43.8	53.1	54.7
雇用関連		60.0	50.0	70.0	60.0	60.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	1.8%	25.0%	46.4%	21.4%	5.4%
平成17年3月	5.5%	14.5%	47.3%	29.1%	3.6%
平成17年6月	1.8%	19.6%	50.0%	25.0%	3.6%
平成17年9月	1.7%	20.3%	59.3%	11.9%	6.8%
平成17年12月	3.4%	22.4%	53.4%	15.5%	5.2%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは54.3であり、9月調査分と比べて6.2ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.3	45.5	52.1	48.1	54.3
	家計動向関連	45.8	40.3	51.3	46.3	50.7
	企業動向関連	62.5	56.7	50.0	48.3	57.8
	雇用関連	70.0	50.0	65.0	60.0	70.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	3.6%	34.5%	32.7%	25.5%	3.6%
平成17年3月	3.6%	17.9%	42.9%	28.6%	7.1%
平成17年6月	0.0%	28.8%	52.5%	16.9%	1.7%
平成17年9月	3.7%	16.7%	51.9%	24.1%	3.7%
平成17年12月	1.7%	29.3%	55.2%	12.1%	1.7%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは60.8であり、9月調査分と比べて7.8ポイント上回り、前回に引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		47.8	50.4	45.7	53.0	60.8
	家計動向関連	49.3	48.6	47.1	52.1	60.1
	企業動向関連	44.1	50.0	44.4	52.9	60.9
	雇用関連	50.0	65.0	40.0	60.0	65.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	28.6%	41.1%	23.2%	7.1%
平成17年3月	5.2%	27.6%	36.2%	25.9%	5.2%
平成17年6月	0.0%	19.0%	56.9%	12.1%	12.1%
平成17年9月	1.7%	31.0%	46.6%	19.0%	1.7%
平成17年12月	8.6%	37.9%	43.1%	8.6%	1.7%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.5であり、9月調査分と比べて2.0ポイント上回り、前回に引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったが、企業動向関連DIは9月調査分を下回った。

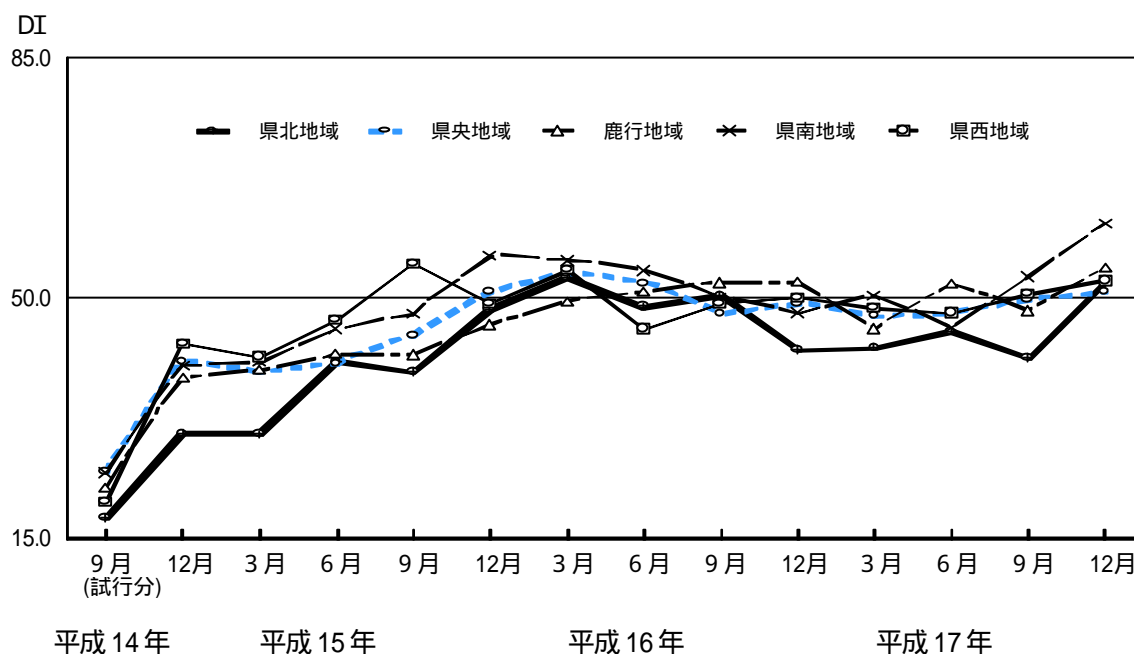
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.0	48.6	47.8	50.5	52.5
家計動向関連		48.3	45.2	48.4	42.7	49.3
企業動向関連		47.4	52.6	47.4	58.3	50.0
雇用関連		70.0	55.0	45.0	70.0	85.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	3.7%	27.8%	40.7%	20.4%	7.4%
平成17年3月	1.8%	23.6%	43.6%	29.1%	1.8%
平成17年6月	0.0%	17.9%	58.9%	19.6%	3.6%
平成17年9月	0.0%	25.9%	53.7%	16.7%	3.7%
平成17年12月	3.4%	28.8%	45.8%	18.6%	3.4%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは49.1であり、9月調査分と比べて0.5ポイント下回り、前回は引き続き横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		43.8	45.8	46.1	49.6	49.1
家計動向関連		40.7	45.9	46.4	47.1	43.1
企業動向関連		47.1	44.1	42.6	52.9	57.4
雇用関連		56.3	50.0	55.0	55.0	65.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	7.1%	66.1%	21.4%	5.4%
平成17年3月	1.7%	10.2%	59.3%	27.1%	1.7%
平成17年6月	1.8%	8.8%	64.9%	21.1%	3.5%
平成17年9月	1.8%	21.1%	56.1%	15.8%	5.3%
平成17年12月	5.2%	19.0%	46.6%	25.9%	3.4%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.6であり、9月調査分と比べて0.8ポイント下回ったものの、前回に引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DIは横這いだったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年 12月	平成17年 3月	平成17年 6月	平成17年 9月	平成17年 12月
合計		48.7	50.5	52.7	53.4	52.6
	家計動向関連	46.5	52.1	55.0	48.7	48.0
	企業動向関連	53.3	45.0	43.8	62.8	62.5
	雇用関連	50.0	55.0	65.0	60.0	55.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	3.6%	12.5%	62.5%	17.9%	3.6%
平成17年3月	1.8%	14.5%	72.7%	5.5%	5.5%
平成17年6月	5.4%	19.6%	60.7%	8.9%	5.4%
平成17年9月	3.4%	28.8%	49.2%	15.3%	3.4%
平成17年12月	8.6%	20.7%	48.3%	17.2%	5.2%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.2であり、9月調査分と比べて1.3ポイント上回り、前回に引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年 12月	平成17年 3月	平成17年 6月	平成17年 9月	平成17年 12月
合計		44.5	54.9	50.4	50.9	52.2
	家計動向関連	41.0	51.4	51.3	52.2	48.6
	企業動向関連	53.6	61.7	45.3	51.7	57.8
	雇用関連	45.0	60.0	60.0	40.0	60.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	14.5%	56.4%	21.8%	7.3%
平成17年3月	5.4%	26.8%	51.8%	14.3%	1.8%
平成17年6月	0.0%	25.4%	54.2%	16.9%	3.4%
平成17年9月	1.9%	22.2%	55.6%	18.5%	1.9%
平成17年12月	1.7%	22.4%	62.1%	10.3%	3.4%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは56.9であり、9月調査分と比べて2.2ポイント上回り、前回に引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは9月調査分を上回ったが、雇用関連DIは横這いだった。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		44.6	52.2	46.1	54.7	56.9
	家計動向関連	47.1	51.4	46.4	54.2	57.4
	企業動向関連	39.7	52.8	47.2	52.9	53.1
	雇用関連	45.0	55.0	40.0	65.0	65.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	17.9%	46.4%	32.1%	3.6%
平成17年3月	1.7%	29.3%	46.6%	20.7%	1.7%
平成17年6月	0.0%	17.2%	58.6%	15.5%	8.6%
平成17年9月	1.7%	41.4%	36.2%	15.5%	5.2%
平成17年12月	1.7%	43.1%	37.9%	15.5%	1.7%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.5であり、9月調査分と比べて4.8ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

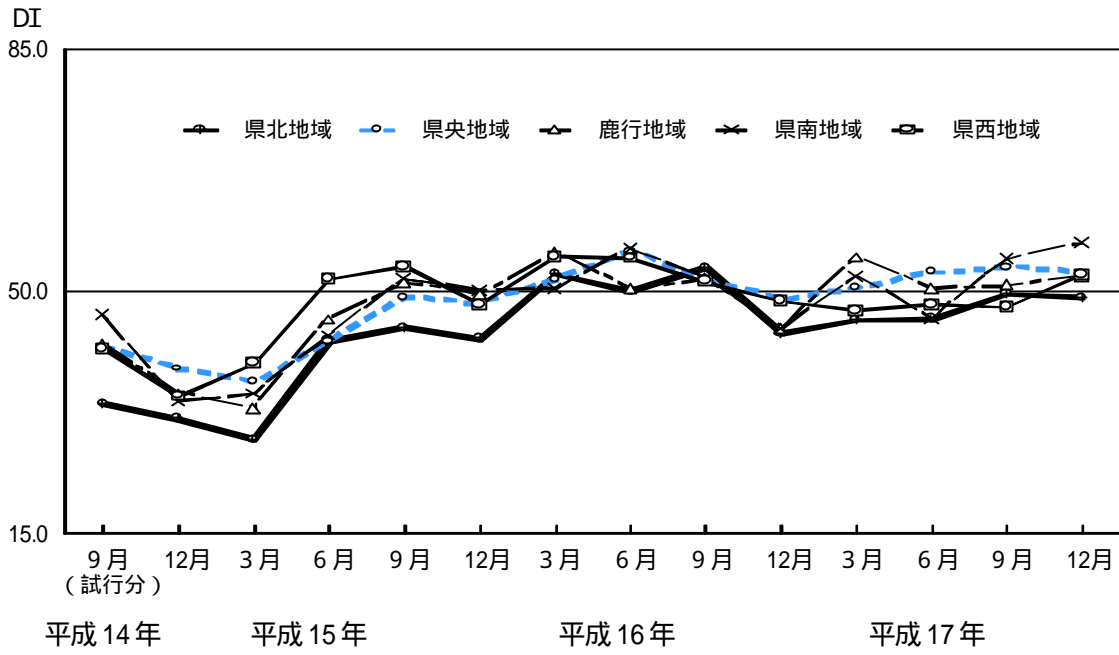
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年	平成17年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.6	47.3	48.2	47.7	52.5
	家計動向関連	47.5	46.8	48.4	46.8	52.1
	企業動向関連	51.3	46.1	44.7	47.2	51.3
	雇用関連	45.0	55.0	60.0	55.0	60.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年12月	0.0%	20.4%	57.4%	18.5%	3.7%
平成17年3月	1.8%	18.2%	52.7%	21.8%	5.5%
平成17年6月	0.0%	14.3%	67.9%	14.3%	3.6%
平成17年9月	0.0%	25.9%	46.3%	20.4%	7.4%
平成17年12月	1.7%	28.8%	49.2%	18.6%	1.7%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	291 人	97.0%
県北地域	60 人	58 人	96.7%
県央地域	60 人	58 人	96.7%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	59 人	98.3%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 東北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良 く な っ て い る	家計	観光型ホテル	予約の問い合わせが多い。客との会話でも、「景気の悪い話」が少なくなったと思う。
		ドライブイン	紅葉シーズンに加え、天候にも恵まれたため、10月下旬～11月下旬の来客数は増加した。平日も駐車場が満車になる等、かなり忙しかった。1人あたりの買上点数が増加したため、小幅ながら売上も上向いた。
	雇用	学校就業関係者	12月上旬時点の新卒者就職内定率は、昨年同時期よりも高い。企業の求人も増加している。
や や 良 く な っ て い る	家計	スーパー	近所の衣料品店では、若者だけでなく熟年男性に高額商品がよく売れている。食品スーパーでも、量より質を重視した購買傾向が見られる。1ランク上の商品やこだわりの商品の動きが良い。
		衣料品専門店	客単価及び常連客の来店頻度が、年度前半より上昇したように思う。
		家電販売店	3ヶ月前と単純比較はできないが、時期的商品の売上げがあるため、若干良くなっているように思う。但し、必要最小限しか買わない傾向は依然として変わっていない。
		小売業（酒類）	ポージョレ・ヌーヴォや、インターネット通販によるワインや果実酒の販売は好調だが、日本酒・ビール・発泡酒の売行きはあまり良くない。忘年会シーズンを迎え、飲食店に活気が見えるようになった。
		居酒屋	客単価が上昇している。ドリンクや料理を勧めた時の反応が良く、値段を気にせず食事をする客が多く感じる。また、帰る際も電車の時間にとられずタクシーを利用する客が増えてきた。
		居酒屋	忘年会等の年末需要が期待できる。
		観光型ホテル	客単価は下がっているが、客数は増加している。今まで停滞していた人の動きが、そろそろ動き出した感がある。忘年会シーズンということもあり、飲食店やホテルは活況を呈している。
		ゴルフ場	ゴルフシーズンだということもあるが、来場者が昨年同時期と比較して5～8%増加している。
		ゲームセンター	客単価が上昇している。安売りに飛びつくのではなく、多少高くても良い商品を購入している。
		理・美容店	理美容業界では、新年の準備と併せて、年末に向け客の増加が見込める。また、地元企業の冬季ボーナス支給によって、スーパー等の贈答品コーナーに活気が出てきたように思う。
住宅販売会社	接客の際、客から景気が悪いという話を聞かなくなった。金利の上昇が影響しているのかもしれない。		
い る	企業	水産業関係者	若干、明るい兆しが見えた気がする。一方で、金融機関の貸し渋りのため、廃業に追い込まれた沿岸漁業者も出ている。
		製造業（電気機械器具）	当社の協力工場も、他社からの受注量が増加し忙しいようである。新規設備投入に対し、機械メーカーの納期回答も順番待ちで3～4ヶ月程かかるとのことだった。大手企業の冬季ボーナスの増加により、購買意欲も増すとされる。週末の忘年会予約がほとんど取れない状態である。
		製造業（電気機械器具）	現場の作業量が上向いている。
		製造業（電気機械器具）	下期の生産計画が、輸出案件も含めアップした。
		非製造業（建設業）	国政の変化と共に、経済的にも動きがあるように思う。
雇用	人材派遣業	3ヶ月前より引き続き、各業界で人材を補強する動きが見られる。特に、サービス業や製造業で派遣依頼が増えている。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	身の回りでは、景気の変化を感じない。
		コンビニエンスストア	客数は微増だが、1人あたりの買上点数が前年を下回っているため、売上としては変わらない。
		コンビニエンスストア	景気が回復する要因が見当たらない。
		スーパー	売上げにも、客の様子にも変化はない。
		自動車販売店	販売台数が依然として伸び悩んでいる。
		小売業（靴製品）	消費者の買物に対する姿勢が変わらず、依然として財布のヒモが固い。米の出来が良かったので、農家収入の増加を期待したが、米価は低く期待はずれだった。
		レストラン	飲み物の売上げが芳しくない。12月に入り、忘年会利用客の増加に期待している。
		観光型ホテル	収支状況より判断して変化はない。
		旅行代理店	来店者数が変わらず、客単価にも変化がない。
タクシー運転手	忘年会等により、やや増収が見込まれるが、一時的なものだと思う。		

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	企業	製造業（一般機械器具）	作業量等から判断して景気に変化はない。
		製造業（一般機械器具）	受注が少なく、仕事量に変化が見られない。
		製造業（電気機械器具）	名古屋・中部地区では景気が良くなっていると聞けるが、県内の業況には変化がない。
		製造業（電気機械器具）	メイン受注先の状況が変わらないので、業況にも変化はない。
		製造業（電気機械器具）	受注は多少増加しているものの、中国との価格競争のため単価を安くせざるを得ないので、業況が上向き要素にはならない。
		非製造業（建設業）	一般には回復傾向と聞けるが、周辺の様子は低調のままである。
		非製造業（不動産業）	販売会での集客数は、30代前半の需要層を中心に増加傾向にあるが、成約状況に変化はない。但し、建売分譲でも、ローコスト住宅からハイコスト住宅へ志向が移行しつつあるようだ。
		非製造業（情報処理サービス）	特に変わった様子は見られない。
雇用	求人開拓員	自動車関連企業で仕事量が増加しているが、取引先からコストダウンを強要されるため、利益拡大には繋がっていないようだ。	
	公共職業安定所	建設業からの求人は僅かながら増加しているものの、製造業の求人は減少傾向である。一方で、求職者は増加している。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	農産物直売所	買い控えか、自家栽培が豊富なためなのか理由ははっきりしないものの、青果物の売上げが落ちている。
		ガソリンスタンド	元売子会社、セルフスタンド、ホームセンター等は、通常の仕入れ以下で販売している。客がそちらに流れてしまい、売上げは減少している。
		食堂	弁当に押され、昼食の出前件数が減少した。また、夜の外食客も以前に比べ減少したように思う。
		タクシー運転手	タクシーチケットの利用が減少し、現金で支払う客が増加した。また、乗車1回あたりの料金が低下しているように思う。
		タクシー運転手	地元企業の業況はうなぎのぼりで、生産に追われているようだ。このため、職員の出張や研修等が減少し、タクシー利用も3ヶ月前と比べて2割程度落ちた。
		タクシー運転手	1日あたりの営業回数及び売上げが減少しており、特に土・日・祝日の仕事が減少している。駅での乗降りも少なく、夜の居酒屋等の客も少ない。忘年会や新年会もあまり期待できないのではないか。
		レジャー施設	入場者数が減少しているうえ、客単価も低下している。
		クリーニング店	客数自体が減少しているし、客単価も低下している。
企業	林業関係者	原木価格が下降気味である。	
	製造業（食品）	販売単価の下落が製造原価を割り込む場面もでてきており、粗利が悪化し採算割れを起こしている。	
	製造業（輸送用機械器具）	カーメーカーの値下げ要請が継続する中、鋼材・銅、更には原油高騰により樹脂等を主体に関連製品が値上がりしているため、収益が圧迫されている。	
	非製造業（金融業）	地元企業が主に重電を基盤としているため、一時的な受注増はあるものの、今後改善の見込みがないうえ、労働者人口も減少していることから、消費は冷え込んでいる。また、空きテナント等に進出する企業も、県北地区だからと敬遠がちである。	
雇用	求人広告	製造業の受注は増加している一方、人材不足やコストダウンの要請があり、1人1人の負担が大きくなっているようだ。また、県北東部より北西部の方が人の動きは活発に感じる。	
悪	家計	小売業（土産物）	高齢者の医療費負担が上がったり、税制改正論議の行方次第では個人負担が増える懸念もあり、客の財布のヒモが固い。
		スナック	店周辺の人通りが減った。特に働き盛りの40～50代の人が減っているように思う。

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	製造業（食品）	年末商戦に入り、商品の動きが良くなっている。
		非製造業（コンサルタント業）	不動産及び建設関連において、東京及び外資マネーがファンドを介して水戸に投資されている。
やや良くなっている	家計	百貨店、総合スーパー	3ヶ月前は、台風等の悪天候もあり、来店数が減少したが、11～12月上旬にかけては、好天気恵まれたことに加え、気温の低下もあり、冬物衣料が順調に推移している。主力の婦人服やマフラー・手袋等の防寒用品のほか、宝石・化粧品等も雑貨類の動きも良い。
		百貨店、総合スーパー	11月の内原イオンモールオープンに伴い、売上げ減を覚悟していたが、季節商品の冬物衣料が活発に動いている。最近急に冷え込んだことで、購買意欲が高まったのだと思う。
		専門スーパー	冬物商材の動きが活発で、消費動向としては上がっていると思う。また、クリスマスデコレーション関係の商品が、昨年に比べ良く売れており、生活的な余裕を感じる。
		割烹料理店	県北地区に新たに出店したことにより、本店の客層も広がった。
		都市型ホテル	忘年会シーズン、クリスマス時期ということもあり、多方面で消費が活発化しているように感じる。
		タクシー運転手	年末に入り、歳暮商品・クリスマス用品を買い求める客が増加している。また、忘年会等により飲食店の客も増えている。
		タクシー運転手	12月に入ってから、忘年会や飲食会等の機会が増え、タクシーの利用客が増加している。現在、21時以降に水戸駅から乗車する男性客の6割程度が飲酒している。忘年会帰りの利用客は、これから年末まで増える見込みであり、これに伴い売上げも好調に推移すると思う。
		ドライブイン	秋の行楽シーズンでは、団体客の予約が多かった。客単価も増加しているように思う。
		建築設計事務所	県内の仕事は相変わらずだが、都心部の法人・企業からの受注が順調である。数年間抑えてきた新規設備投資や改築工事が、ようやく動き出したのではないかと。
		企業	非製造業（建設業）
非製造業（輸送業）	新規貨物の引き合いが増えているうえ、荷主の商品取扱量が増加している。		
雇用	求人開拓員	自動車部品関連の下請企業は、受注量が増加している。また、一般的に求人依頼する企業が増えている。特に技術者の希望が多い。	
	公共職業安定所	今年9月、平成5年4月以来12年5月ぶりに有効求人倍率が1.0を越えた。10月は更に0.06ポイント増加し倍率は1.07倍となり、2ヶ月連続で1.0を越えた。また、新規求人数も対前年同月比6ヶ月連続で増加している。	
変わらな	家計	商店街代表者	景況感にほとんど変化は見られない。売上げ、客数ともにあまり変化はない。
		コンビニエンスストア	販売動向が上向かない。
		専門スーパー	売上げは昨年並みで推移している。
		自動車販売店	新車・中古車の車輛販売台数が、昨年同期比で横這いからマイナスに落ち込んでいる。また、ガソリン価格が高値で安定しているため、月々のガソリン代負担が大変だという話を良く聞く。
		農産物直売所	近所に新しくできたスーパーに直売コーナーがあり、客を取り合う形になっている。1人あたりの買上点数が減少しており、今後1ヶ月程度は売上減を覚悟する必要があると思う。
		スーパー	客単価が上がらないうえ、買上点数もダウンしている。
		都市型ホテル	良くなっている業界もあるようだが、一方で厳しい話も耳にする。全体としては未だ景気回復とはいえないのではないかと。
		観光型ホテル	既に上向き傾向になっていると思うが、直接的には感じられない。
		旅行代理店	個人客は上向いてきたが、団体客に関しては悪くなっているように思う。
		タクシー運転手	忘年会シーズンになっても、飲食外の客足は少ない。タクシーの乗客も普段と変わらない。
		タクシー運転手	秋から初冬にかけては旅行シーズンなので、売上げ増を期待したが、あまり変わらなかった。
		ドライブイン	9月と比較して、前年同月比の売上げが比率的に変わっていない。
観光名所	季節的に閑散期に入っているが、土日はそれなりに人出がある。しかし、特に高額商品の販売には結びついていない。		

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	パチンコ店	自社の売上げは若干上昇しているが、業界周辺の状況も加味すると大きな変化は見られない。
		レジャー施設	例年、マリナーレジャーは冬季に入ると客足が少なくなる。売上的には、前年同期と変わらない。
		レジャー施設	昨年と同等の入場者数が確保できており、減少傾向は見られない。また、求人募集してもあまり集まらないので、職を探している人も少ないのではと感じる。
		理・美容店	相変わらず、空き店舗や閉店する店が目につく。
		住宅販売会社	特に変化を感じない。
	企業	製造業（食品）	新店舗のオープン等により、一見消費が拡大したように見えるが、イベント・催事等では依然として消費者の財布のヒモは固い。
		製造業（出版・印刷業）	年末特売のチラシ等を請け負う企業は好況だと思うが、冊子等の印刷については、それほど大きな動きは見られない。
		製造業（出版・印刷業）	特に変わった様子は見受けられない。
		製造業（金属製品）	目新しい変化はない。相変わらずコストダウンや値引きの要請が強い。
		製造業（一般機械器具）	若干下降気味だが、概ね変わらない。
製造業（一般機械器具）		9月の受注量は上半期ピークだった。その後も多少の変動はあったものの大きな落ち込みはなく、現在もその状況を維持している。	
非製造業（金融業）		回復基調との報道等により、地方でも回復ムードは感じられるが、個人消費・設備投資ともに大きな変化は見られない。	
非製造業（不動産業）		来客数等に増減がない。	
雇用	人材派遣業	特別に受注が増加しているわけではない。	
	求人広告	大型ショッピングセンターがオープンしたり、今後コンビニエンスストアの出店が予定されているとの情報もあり、働く場所は増えている。しかし、その分既存店舗の雇用が厳しくなっているようだ。	
	学校就業担当者	昨年の同時期と比べると、確かに景気は上向き傾向にあるが、3ヶ月前と比較して景気が更に良くなっているという兆候は見当たらない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	大型ショッピングセンターがオープンしたことにより、土・日・祝日の集客が困難になった。
		スーパー	客数が減少している。
		スーパー	大型店の相次ぐ出店により、客数が右肩下がりに減少している。
		レストラン	来店客数が僅かながら減少しているように見受けられる。
		レストラン	忘年会の時期に入り、ある程度客足は増えているが、昨年に比べて1組の人数が少なく、客単価も低いように思う。昨年以上に厳しいと感じる。
		ゴルフ場	来場者数が1月おきに増減を繰り返している。11月は減少、12月についても予約状況から見てそれ程の好転が期待できない。
		ゲームセンター	内原イオンモールのオープンにより、客数が減少している。
企業	非製造業（広告代理業）	受注企業の販促予算は、対前年比20%減である。チラシのロット減やサイズダウンが目立ち、受注件数は昨年並みののに、受注金額は減少している。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	夏以降、商店街の人通りが非常に少なくなっている。10月末のダイエー水戸店閉店及び11月の内原イオンモールオープンの影響が大きいと思う。
		理・美容店	大企業は好況なようだが、理・美容の業界は、好転どころか景気が悪くなっている。様々に営業努力をしているが、客の利用回数が急激に減少している。
	企業	製造業（土石製品）	仕事の受注量が激減している。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	企業	非製造業（輸送業）	保管貨物の出庫が活発である。同時に入庫も活発に展開している。年末時期ではあるが、新規荷主の引合いも多く、実際に貨物が入庫してきている。昨年同期と比較すると格段の差がある。
やや良くなっている	家計	スーパー	客単価及び買上点数が増加している。
		小売業（酒類）	売上げ的には、毎月対前年同月比を上回っており、悪くないと思われる。特売時と平常時の売上額に若干の差はあるが、月単位で見ると概ね目標額は達成している。販売方法等は左程変わっていないので、景気はやや良くなっていると思う。
		コンビニエンスストア	好景気とまではいかないものの、購買スタイルや消費行動が拡大していると思う。
		観光型ホテル	利用者が多少増えている。
		洋食食堂	前年同月比で9月は116%、10月は118%、11月は128%と、来客数・売上げとも良好である。
		割烹料理店	11月は悪かったが、12月は予約状況が昨年度比を上回っている。
		理・美容店	時期的なものだと思う。
		クリーニング店	自分の仕事ではあまり感じないが、他の業種ではやや上向いているという話を聞く。
		クリーニング店	年末なので、道路土木関係、建築業、カーテン縫製業等の業種は忙しいようだ。但し、自動車の新車販売業等は厳しいと聞いている。
		住宅販売会社	地元企業の業績が好調で、関連会社の社員も残業が多いようだ。
良	企業	農業関係者	年末年始の需要期を前に、幾分良くなっている。
		製造業（食品）	歳暮シーズンが到来し、年末年始を控え、商品に動きが出て来ると思われる。
		製造業（窯業・土石製品）	鉄鋼業は自動車・造船向けの高級鋼材の需要が順調で、原材料の高騰も価格転嫁され、中間・年度末収益は過去最高益を達成する見込みである。また、冬季ボーナスの支給額も年々増加傾向にあり、個人消費の伸びやネット株取引高の増加が景気回復の一翼を担っているように感じられる。しかし、当社の販売先である建設業を取り巻く環境は、公共事業の縮小や耐震強度偽装問題等により悪化することも考えられる。
変	雇用	人材派遣業	企業の生産状況及び設備投資は依然として活発である。業績好調の今期を踏まえ、次年度（H18年度）大幅な人員増を計画している企業もあるが、対応する派遣スタッフを探すのが難しい。
		公共職業安定所	求人数は横這いだが、求職者数は減少傾向で推移している。
		学校就業関係者	若い人を採用したいという企業が増えた。
変わらない	家計	小売業（金物店）	3ヶ月前と同様、客足・売上げとも変わらず低調である。例年であれば、年末の需要期だが、今年は普段月と変わらない。
		商店街代表者	経営努力をしている店としていない店の格差が広がっており、全体的にみれば景況感に変わりはない。商店街では、後継者がいないため高齢な商店主が増加しており、以前のような活気が生まれ難い。
		商店街代表者	新聞紙上では、景気は上昇傾向と伝えられているが、鹿行地区では景気の変化を感じない。
		コンビニエンスストア	買上点数が減っているうえ、単価も上がっていない。全体的に消費の勢いが感じられない。
		農産物直売所	必要な数・量しか購入しない客が多い。
		スーパー	客数・買上点数ともに変化が見られない。
		専門スーパー	客数に変化がない。
		小売業（薬品店）	来年以降の増税を意識しているためか、消費動向は鈍い。
		書店	売上げに変化がない。
		スナック	収入はダウンしているのに、公的な支出は同じなので、年々生活が悪化しているように感じる。但し、緩やかな変化のため、3ヶ月前との比較では大きく変わりにない。
		タクシー運転手	忘年会シーズンになり、夜の利用客は増加しているが、昼の利用客は全く増えない。
		ゴルフ場	利用客数等に大幅な増減は見られない。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
変 わ ら な い	家計	パチンコ店	変化らしい動向が見られない。	
		室内装飾業	依然として、受注物件が少ないし、業界に活気が無い。	
		サービス業	顧客より緊急対応の要望が増加しているものの、業況には変化がない。	
		住宅販売会社	現在、住宅を建てているのは、圧倒的に大企業の社員などが多い。それ以外の人達は、将来への不安が大きいため、大きな買物は躊躇しているのではないかと。	
		ドライブイン	野菜等の農産物は順調に売れているが、主力の米が新米の時期を過ぎてやや低迷している。一方、地元産サツマイモの売行きが伸びてきた。焼きイモの人気も高まりつつある。	
	企業	水産業関係者	燃料価格の高騰により、収益が圧迫されている。	
		製造業（印刷業）	良くなった実感も悪くなった実感もない。	
		製造業（化学工業）	売上げはほぼ予算並だが、電気・蒸気の購入単価が上がったため、3ヶ月前とあまり変わっていないと思う。	
		製造業（食品）	全体的には、やや良くなっているようだが、原油高が足を引っ張っているようだ。	
		製造業（金属製品）	業況は良い状態が継続している。12月は冬季ボーナスの支給もあるので、個人消費が拡大されるのではないかと。	
		製造業（電気機械器具）	扱い高、売上げ共に、余り変動がないと思う。	
		製造業（飼料製造）	悪くはなっていないが、更に良くなる材料もない。	
		製造業（化学工業）	原油高騰に伴う原材料高は依然として続いており、価格転嫁と為替差益で何とか利益を維持している。	
		非製造業（住宅設備施工業）	業務量の増減もなく、景気の変化を感じない。	
		非製造業（金融業）	景気の堅調さが各指標でも確認できるが、鹿行地区の企業や事業者の業況の厳しさには変化がない。	
	非製造業（不動産業）	顧客及び取引業者等に上向きの変化は見られない。		
	雇用	求人开拓員	仕事量は増加しているが、原材料費の値上がりにより経営が厳しい事業所が多いようだ。	
	やや悪くなっている	家計	商店街代表者	収穫の秋にもかかわらず、農産物価格が全般的に安値なので、利益がでない。
			自動車販売店	原油高の影響で、運送業関連の仕事が厳しいようだ。業績を伸ばしている会社もあるが、それ以上に厳しい話が多い。サラリーマンも、冬季ボーナスの支給額は概ね上がっているようだが、それ以上に生活に経費がかかり、「安ければ買おうかな」程度の購入意欲しかない。
観光型ホテル			対前年度比で、予約状況・利用者数が下回っている。	
小売業（菓子販売店）			10～11月は天候不順も重なり、経営は厳しい状態である。	
観光名所職員			寒くなるにつれて、客足は遠のくように感じる。	
パチンコ店			客数が減少しており、回復の見通しが立っていない。	
日本料理店			周辺に大型店やチェーン店が増えたため、小規模飲食店では集客に苦戦している。	
悪	家計	家電販売店	家電製品を新たに購入する客が減り、修理の依頼が増えた結果、売上げが落ちている。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良 く な っ て い る	家計	商店街代表者	売上げが増加した。
		家電販売店	高額商品を購入する際、比較のためらいが無くなったと感じる。
		洋食食堂	コース料理のメニューをオーダーする際、今までより1つ上のランクを選ぶ客が増えている。
	企業	製造業（食品）	つくばエクスプレス開業以降、予想以上に客足が伸びた。12月は歳暮シーズンとも重なるため、大幅な売上げ増が期待できる。
製造業（窯業・土石製品）		業績からは景気が良くなっているとは言い難いものの、冬季ボーナス支給額の増や円安の継続、株価の上昇等が報道されており、心理的に好況感がある。	
や や 良 く な っ て い る	家計	スーパー	高額商品が売れている。また、僅かだが買上点数も増加している。
		スーパー	客数が増加している。客単価も僅かだが増加している。歳暮商品も出足好調である。
		衣料品・身の回り品販売店	買上点数、1点単価とも上がっており、売上げは前年比100%以上になっている。
		専門スーパー	11月以降、客数も客単価も上がっている。
		ガソリンスタンド	冬季は灯油の販売を行うため売上げは増加する。ガソリンスタンドの客の話では、建設業の業況が悪いらしい。売掛金の支払い遅滞や社員の退職等も増えているようだ。
		洋食食堂	客数は伸びているが、季節的なものであると推測され、マスコミ報道のような景気回復基調を肌で感じることはできない。
		都市型ホテル	つくばエクスプレスの開業以降、県南地域への人の流入が増加している。もちろん流出もあるが、人の動きと共に金も動くので、多少景気も良くなるのではないかと。
		タクシー運転手	忘年会シーズンなので、客数は伸びると思う。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスの開業により、タクシー使用者数が増加した。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスの開業により、乗客が増した。
		タクシー運転手	回数・売上げとも微増ではあるが伸びている。企業のチケット利用も僅かながら増えている。
		ゴルフ場	会社等が主催するコンペが増加している。
		ゴルフ場	11月の来場者実績及び12月の予約状況は、前年同月の状況を上回っている。
		建築設計事務所	当事務所だけでなく、周辺の建築設計事務所も仕事量が増え、多忙になっている。
て い る	企業	製造業（一般機械器具）	仕事量に変化はないが、会社全体として増収増益である。年末にかけてのクリスマス商戦で、更なる売上げの伸びが見込まれる。
		製造業（金属製品）	第3四半期（10～12月）は、注文も順調に入り、安定生産ができた。
		非製造業（建設業）	建設関係の業種は、年末にかけて受注が伸びている。近くの工業団地でも、好調な企業が数社あり、その効果で関連業種も活況を呈している。
		非製造業（建設業）	仕事量は以前に比べ増加している。また、近所の割烹でも去年に比べ忘年会の予約が多いようだ。
		非製造業（不動産業）	都内及び地元からのニーズが増加しており、駅近物件やつくば市中心地、つくばエクスプレス沿線の物件に成約が目立つ。不動産も二極化しており、売行きの良い・悪しが明確になってきた。
雇 用	雇用相談員	人材派遣業	受注が増加している。それも少人数ではなく、5～10名単位の注文が増えてきた。
		建設機械メーカー	建設機械メーカーは輸出が順調に推移しており、生産が追いつかない状況である。但し、下請けの部品メーカーでは、受注は増加しているものの原材料費の値上がりにより収益が圧迫されている。運輸関係も燃料価格高騰のため利益は減少している。一方、スーパー等の売上げは少しずつ好転しつつあり、タクシーの利用状況も下げ止まりの感がある。建設業界は、公共事業の減少により引き続き厳しい状況が続いているが、その他の業種では少しずつ好転しつつあるようだ。
		学校就業関係者	製造部門の求人がやや増えてきている。

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	スーパー	客数の伸びがほとんどない。ほぼ前年並で推移している。
		スーパー	買上点数が増えていない。
		コンビニエンスストア	売上げは概ね横這いだが、価格の高い商品も売れている。
		コンビニエンスストア	客数・客単価ともに、大きな数値変化はない。悪くなっていることはないが、良くなってもいない。
		自動車販売店	仕事で東京近郊へ行っている人は「都市部では景気が良くなってきている」と言うが、普段の仕事ではその兆候をまだ感じ取れない。
		農産物直売所	景気の変化が全く感じられない。
		寿司店	年末という時期的な要因なのか、仕事に流れがあるような気がする。
		都市型ホテル	宿泊、宴会、レストラン利用ともに変化が見られない。
		旅行代理店	愛知万博に代わる目玉商品的なイベントがないと、売上げ増は期待できない。
		旅行代理店	時期的なこともあるが、落ち着いた感じがある。
		パチンコ店	マスコミ報道等による景気回復の見方は、消費に結びついておらず実感がない。
		ゲームセンター	つくばエクスプレスが開業し、地域の集客力が高まっているが、競合する店舗も増加している。
		レジャー施設	オンシーズンからオフに変わり、正確に比較することはできないが、大きな変化はないように思う。
		理・美容店	年末年始であっても、来客数は普段月と同じで、売上げも変わらない。
理・美容店	客数・客単価は、前年同期及び3ヶ月前と比較して変化はない。近所に美容院が増加しているが、若者をターゲットにした割引競争をしている。当店の顧客は高齢者が多いため、客数や売上げが一定していると思う。		
企業	企業	農業関係者	新聞・テレビ等で、都市部の銀行や大手製造業の活況が伝えられているが、地方の特に農村部では、先行きに不安を持つ者が多く、景気的好転気運は感じられない。
		製造業（食品）	景気回復している業界もあるが、身近には感じられない。業況は横這いで推移している。
		製造業（食品）	都内の景気回復の波は、未だ県内には波及していないと思う。県内の回復は、2年後位になるのではないかと。
		製造業（コンクリート製造業）	9月期と比較すると、やや良くなっているようにも感じられるが、季節的な要因であり、依然として売上げの増加は見込めない。
		非製造業（建設業）	受注量・工事量ともに変化はない。最近では業者間の競争が激化しており、見積り依頼に対して、受注の確保量が著しく低下している。民間工事30件に対して4~5件、官庁工事50件に対して2~3件程度である。受注量を少しでも増やそうと努力はしているが、暫くは余裕のない状況が続くと思われる。
		非製造業（輸送業）	12月は貨物の動きが活発になる。しかし売上げに関しては、物流コストが低迷しているため大幅増には繋がらない。納入先によって受入れが多くなる反面、1月にかなり落ち込む可能性がある。
		非製造業（金融業）	都市部の地域や大企業を中心とした業績回復が堅調になっているが、県南中小企業の経営環境には変化がない。
雇用	雇用	求人広告	発注先企業の話を知っていると、状況はそれ程変化していないようである。
		公共職業安定所	求人は増加しているもののパートが目立ち、正社員採用には依然として慎重さが見られる。一方、求職者数は横這いである。
やや悪くなっている	家計	農産物直売所	昨年は天候不順により野菜が高く、売上げは前年を大きく上回っていたが、今年は豊作のため安値が続いており、スーパー等の店頭でも安く購入できるため、客数及び単価の減少が著しい。
		小売業（各種食料品）	例年、年末には増加する公共工事関係の客が少ないように思う。また、客単価も下がっている。
		和食食堂	土浦地区の商店街や飲食店に活気がない。客数だけでなく客単価も減っており、単価の高いアルコール等は出数が少ない。
		タクシー運転手	支払いに小銭が多い。
		住宅販売会社	客の決断力が鈍ってきていると感じる。
悪	企業	製造業（食品）	常磐線沿線地域では、つくばエクスプレス開業の影響で、快速電車の利用者が減少しており、これに伴い購買人口も減った。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	雇用	求人広告	サービス業や製造業の求人募集が増加している。
		公共職業安定所	新規求職者が減少している。また、事業主都合の離職者も昨年より大幅減となった。
やや良くなっている	家計	スーパー	製造業では、設備投資が増加している等、景気のいい話が多い。一方、小売業では、商品単価の値下げと店舗間競争の中で苦戦している企業が多い。唯一、コンビニの業績は良いようである。
		洋食食堂	景気も底を打った感があり、車の往来も若干増加したように思う。平日でも人出の多い日があり、予約も平日に入るようになった。
		寿司店	忘年会シーズンなので、宴会が多く、売上げ増が見込まれる。
		和食レストラン	時期的な要因もあると思うが、客単価が上がってきている。
		都市型ホテル	株価の上昇、設備投資の増大、石油価格の安定等により、安心感から多少は明るい方向に向かうのではないかと。ホテル業界でも、例年未年始は客が多く忙しい。
		タクシー運転手	年末に向けて、多少客数が増えている。
		タクシー運転手	例年のことだが、12月を迎えると忘年会シーズンとなり、日中の客だけでなく夜の客足も増えてくる。
		タクシー運転手	つくばエクスプレス開業による流れの変化も一段落着いてきた。一部方面の営業回数は落ち込んだものの、冬季ボーナスの支給や年末年始の賑わい、忘年会・新年会等の活気に期待している。
		建築設計事務所	業務受注が増加している。企業も設備投資に積極的になっている。
	企業	製造業（食品）	歳暮製品の受注状況が順調に推移している。消費者の購買意欲が戻りつつあるのかもしれない。
製造業（印刷業）		職種柄10月以降は繁忙期に入る。また、今秋は市町村合併に伴う市長選があり、「選挙特需」が売上げ増に結びついた。しかし、一般の取引先は見積依頼こそ多いものの、前回受注価格の維持さえままならない状況で、利益率は年々下がっている。その減収部分を補う財源の確保に苦慮している。	
製造業（金属製品）		仕事の受注量が増加した。	
非製造業（不動産業）		地元の祭りへの人出が、近年になく多かった。	
雇用	人材派遣業	例年、年末になると企業からの求人数が増加する。	
	学校就業関係者	機械部品製造関連会社での求人が、11月になって3件程あり、雇用環境はやや良くなっているように思われる。	
	就職相談員	年末に向けて、求人数がやや増えている。	
変わらない	家計	商店街代表者	将来の景気に不安を持つ声が多く聞かれ、依然として買い控え傾向は続いているように感じる。
		スーパー	良くなっているという実感も悪くなっているという実感もない。鉄鋼や銀行等、一部の業界で圧倒的に景気回復しているようだが、小売業界、特にスーパーマーケットにおいては競争が激しく、非常に商売がしづらくなっている。
		スーパー	消費動向に変化は見られない。
		コンビニエンスストア	消費に慎重な客の様子に変わりはない。
		コンビニエンスストア	客数はほぼ横這いだが、客単価が上がらないため、依然として厳しい状況である。
		家電販売店	来客者の買上点数が上がっていない。
		自動車販売店	スーパーや店舗等で、値引き商品を良く目にするが、売り切れるどころか売れ残りが多い。冬季ボーナスの話は減多に耳にしないが、ガソリン値上げの話は良く耳にする。
		衣料品専門店	周囲に農家が多いため、農家の収入が売上げを左右する。今年は米価が安定しているので、売上げも変わらないと思われる。農家では、白菜の価格下落を心配している。
		ガソリンスタンド	景気回復との報道が多いが、客との会話では良くなっているという話はあまり聞かない。ガソリンは、栃木県小山市や上三川市周辺において、特に価格が落ち込んでおり、地元業者は厳しいようだ。
		和食食堂	飲食業界全体では、売上げが対前年比4～5%減少している。当社でも2～3%売上げが落ちた。
都市型ホテル	客単価が3ヶ月前と変わっていない。		

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	家計	旅行代理店	取り立てて景気の変化を感じない。
		ゴルフ場	予約状況から判断して、変わっていないように思う。
		レジャー施設	9～10月の休日は雨が多く、各地のイベントでも来場者数が伸び悩んだ。一方、つくばエクスプレス開業に合わせて、筑波山の紅葉がテレビ番組で紹介されたため、つくば市周辺は相当な賑わいを見せたようだ。
		理・美容店	客の来店サイクル（45～60日）に変化がない。
		住宅販売会社	特に変化はない。
	企業	農業関係者	青果物の価格が低迷している。
		製造業（食品）	原材料費や燃料費が高騰しても製品価格に転嫁できない。製造コストだけでなく、運送コストも増加しており、収益を圧迫している。
		製造業（化学工業）	クリスマス商戦用のデジタル家電向け需要が一段落ついた。海外の半導体関連受注も好調を維持している。
		製造業（一般機械器具）	取引先企業7社のうち、自動車関係部品企業は納期が短いため作業は大変だが受注量が多い。温度調節機器の部品メーカーは、毎月コンスタントに受注がある。しかし、残りの5社は前年度の半分程度しか受注がない。
		製造業（電気機械器具）	あまり変化が見られない。
		非製造業（金融業）	事業所や商店等の売上げは、ほぼ横這いであり、景気回復基調との報道とは乖離がある。
		非製造業（広告業）	11月は例年よりも売上げが増加したものの、12月は今のところ目立った動きはない。
	や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者
農産物直売所			青果物の価格低迷に伴い、地域全体の景気が悪いような気がする。客も低価格の商品しか購入しないため、売上げは落ち込んでいる。
ドライブイン			つくばエクスプレスの開業で、つくば方面は景気が良いと聞かすが、県西地区には相乗効果が見られず人出が少ない。
ドライブイン			12月は、旅行バスや個人のマイカーも少なく、土日でも閑散としている、まして平日はかなり厳しい状況である。
ゲームセンター			11月の内原イオンモールオープン以降、客の流れに変化が出ている。
パチンコ店			客1人の遊戯時間が短くなっているように思う。
理・美容店			秋口は天候不順だったが、客の回転は比較的良かった。しかし、最近1ヶ月程は急な寒さのためか、客足が遠のき、客数・売上げとも減少傾向にある。
企業		農業関係者	生産資材や暖房経費の高騰により、収益が圧迫されている。
		製造業（石材業）	秋彼岸が終わり、11～1月は墓石業界は、例年比較的暇な時期になる。
		非製造業（コンサルタント業）	原油高騰の影響で燃料費が増加し、それがボディプローのように効いてダウン寸前の業種もある。
悪	家計	クリーニング店	客数、売上げとも減少している。
	企業	製造業（石材業）	11～12月は今年最低の受注量だった。これまで受注が多くて忙しいと言っていた業者ですら、珍しく弱音を吐いていた。

景気の判断理由

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	スーパー	一部の企業では求人難のようだが、求職者側は概ね自分の希望する業種に就職できているように思う。雇用環境の改善が景気の好転にも繋がるのではないかと。
		タクシー運転手	中国等の好景気を受けて、それらの国へ出張する者や、逆に研修等で地元企業を訪れる外国人が多く見受けられる。今後も外国人の送迎が増加するのではないかと。
	雇用	人材派遣業	年明けから3月頃は1年を通じて人材の流動が激しい時期だが、製造業が堅調なので、その影響が各産業へ波及していき雇用環境は好調を維持するのではないかと。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	価格は高くても、欲しい商品は購入する傾向が強まっている。
		スーパー	冬季ボーナスの支給額が増加した企業もあると聞いた。少しずつ景気が改善する要素はあるので、ちょっとした良い物や美味しい物、高価な物が売れるようになって予想される。
		観光型ホテル	不良債権問題が一段落し、高収益を計上する企業が多数見られるようになった。これから、中小企業や地方にも次第に景気回復の波が届くようになるのではないかと期待している。
	企業	製造業(電気機械器具)	大手企業の期末を迎え、例年どおり受注量が増加すると思われる。また、鋼材等の原材料仕入価格も徐々に低下気味である。
		製造業(電気機械器具)	国内受注が多少増加する見込みだが、海外物件は変動がなく動きが悪い。
		製造業(電気機械器具)	作業量計画が予算を上回る予測となっている。
		製造業(電気機械器具)	年明けからは夏物の仕事が入ってくるので、今後3~4月は増収になると思う。
		製造業(電気機械器具)	10月より新機種が更に生産アップとなる。
		非製造業(建設業)	公共事業の発注が早めに動いているようなので、12~3月は忙しくなりそうである。また、今年は寒さが早いこともあり、冬物商戦も活発な気がする。
		非製造業(情報処理サービス)	年度末なので、今に比べれば景気が良くなっていると思う。
雇用	学校就業関係者	企業の好況傾向は当面継続すると思われるので、求人数も増加すると思う。	
変わらない	家計	スーパー	現状と変わらず推移していくと思われる。
		自動車販売店	業界周辺で、あまり景気の良い話を聞かない。
		農産物直売所	周辺に大型店が相次いで出店しており、その影響もあり、売上げの低迷傾向は暫く続くと思われる。
		小売業(酒類)	12月が過ぎると、1~2月は例年どおり客足が鈍るので、売上げは期待できそうにない。
		小売業(靴製品)	良くなる要素が何もない。
		レストラン	これ以上悪くなることはないと思う。
		居酒屋	客との会話で、「ボーナスが良くなかった」という声が多い。
		居酒屋	年始は、年末程の客入りが期待できない。
		観光型ホテル	予約状況から鑑みて、変化はないと思う。
		旅行代理店	県北地域の景況からみて変わらないと思う。
		タクシー運転手	収入も今までとほとんど変化はなく、人の動きも変わらないと思う。
		ゴルフ場	予約状況から判断して、現状より大きな変化はないと思われる。相変わらず、プレー間際にならないと予約が入らない傾向は続いており、客から2~3ヶ月先の話を聞かない。
		ゲームセンター	求人広告の応募件数が増加している。正社員を取る求人も良く聞くようになった。
レジャー施設	景気は良くなる兆しを来場客から感じ取ることができない。		
クリーニング店	業界的にも景気の良い話を聞かないし、原油・ガソリンの価格高騰は景気回復の足を引っ張ると思う。		

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	企業	住宅販売会社	一部の企業のみ景気が良く、中小企業はまだ苦戦しているように見受けられる。
		水産業関係者	初春の時期は、船体検査等により出漁しない期間が多いので、例年売上げは横這いか低下する。
		製造業（食品）	デフレによる販売単価の下落が、今後も修正されるとは思えない。
		製造業（一般機械器具）	作業量見込等から判断して景気に変化はないと思われる。
		製造業（一般機械器具）	受注件数が増加する見込みもないため、業況はこのまま変わらないと思う。
		製造業（電気機械器具）	先行きが見えない企業が多いように思う。
		製造業（輸送用機械器具）	メーカーの値下げ要請に対し、鋼材、樹脂等の関連製品が値上がりしているため、収益が圧迫される状態は暫く継続すると思われる。
		非製造業（建設業）	現況から推測すると、3ヶ月程度で景気が上向くような様子は見られない。
		非製造業（不動産業）	一般には景気回復傾向にあると言われているが、周辺ではその動きは感じられない。
	雇用	求人開拓員	良い方向性の話題が出てこない。
求人広告		県北地域は産業との繋がりが強いので、業界が低迷すると町全体に元気がなくなってしまう。また、県内の好要因（県央地域への商業施設進出等）から受ける影響も少ない。	
公共職業安定所		管内主要企業は業況調査において、先行きに期待しているものの依然として厳しい見方を変えていない。また、原油価格の高騰に伴い、輸送業は直接的な影響を受けており、仕事は増加しているが利益は減少しているようだ。その他の業種においても、原油高の影響で利幅が減少している。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	来店客数は回復傾向だが、客単価の割り込みが以前より続いている。
		衣料品専門店	個人消費は、年度前半より後半の方が良くなっているが、定率減税の廃止等による増税感が個人消費を鈍らせるのではないかと。
		家電販売店	年明け1月中旬頃からは売上げ的に厳しくなると思う。春の需要期まで持ちこたえるのがやっとという感じではないかと。
		ガソリンスタンド	客の様子見ても、個人の財布のヒモは依然として固いと感じる。地方では、都市部のような回復には遠く、暫くはデフレ傾向が続くのではないかと。
		食堂	最近では正社員ではなく、パートやアルバイトでの採用が多く、収入の安定が難しいようだ。働く高齢者も増加したが、給料は少ないようである。
		観光型ホテル	例年2～3月はあまり集客に期待できない。しかし、3月下旬から4月上旬にかけては多少良くなる見込みである。
		タクシー運転手	系列会社でも大手のタクシー会社が他社と合併した。燃料の値上がり等により、会社のコスト負担も大変だと思ふ。
		タクシー運転手	夜の飲食店等からの利用客が減少しているうえ、代行利用者が増加しているため、タクシーの利用客が減少している。また、平日の病院や買物、営業等で乗車する客も減少しているため、先行きも期待できない。
		ドライブイン	例年1～3月は、寒さや降雪のためマイカー客は減少する。また、スキー客も年々減少しているように思う。
		パチンコ店	大型店の進出により、売上げが低下することを懸念している。
理・美容店	例年12～1月が好調な分、2～3月の売上げは右下がりになる。		
企業	林業関係者	年度末に向けて、需要が伸びないと思われる。	
	非製造業（金融業）	地元企業の受注状況に明るい見通しがなく、県北地区の人口減少も止まらない状況なので、近い将来景気が好転するとは思えない。	
悪 家計	小売業（土産物）	医療費負担増や増税論議等の将来不安から、消費者の財布のヒモは更に固くなるのではないかと。	
	スナック	店の客の様子を見ても、昔のように、楽しく歌う人や、面白い話で周囲を盛り上げる人が少なくなった。笑いながら酒を飲む機会が減った気がする。	

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	割烹料理店	株価も上がっており、景気回復への期待感がある。
	企業	製造業（食品）	天候に大きく左右されるが、観梅の集客に期待したい。
		製造業（出版・印刷業）	官公需要等、年度末にかけては例年繁忙期となる。
		製造業（一般機械器具）	3月は決算期のため、例年受注・売上げが増加する。今年はそれに加え、民間設備投資の拡大により、主要顧客である石油・石油化学業界が活発な投資を展開している。今後需要が拡大する部品等であり、この状況は今後暫く継続すると思われる。
		非製造業（コンサルタント業）	東京や外資の金が、水戸周辺の不動産や建設関連に投資されるという流れは、今後も継続すると思われる。
やや良くなっている	家計	百貨店、総合スーパー	来年度、新店舗がオープンするため、これに伴う売上げ増加を見込んでいる。但し、定率減税の縮小や厚生年金保険料の増加等により、一般家庭の可処分所得減少が懸念され、商況としては依然厳しいと予想される。
		百貨店、総合スーパー	冬物バーゲンの仕掛けが続き、様々なシーンで消費意欲が高まり、季節商品を中心に活発に推移すると思われる。
		専門スーパー	天候に左右される面はあるものの、大きな変化はなく好調を維持すると思う。但し、今後の原油価格の動きが気になる。
		タクシー運転手	3～4月は、異動に伴う送別会や歓迎会があり、その移動や帰宅時にタクシーを利用する客が増加する。このため、売上げも上昇すると思われる。
		ドライブイン	観梅シーズンのため、来客数の増加が見込まれる。
		観光名所	例年、正月以降は人出が回復してくる。春に向けて様々な企画で来場者にアピールしていきたい。
		理・美容店	水戸駅南の開発が進めば、県央地区の景気も上向くのではないかと。
		建築設計事務所	都心部の法人・企業からの受注が順調なため、年度内は良好に推移すると考えている。
	企業	製造業（金属製品）	製品モデルチェンジに関連する見積りの引き合いがきている。希望的観測も含めて、今後景気が好転すると思いたい。
		非製造業（建設業）	県内の地価上昇は、今後暫く継続すると思われる。商業的には、内原イオンモールの活況に加え、クリスマス・年末年始の商戦が更に景気回復を加速させるのではないかと。
		非製造業（金融業）	株価の上昇及び企業業績も回復基調であり、冬季ボーナス支給等の季節的要因を含む消費拡大基調が地方都市にも波及してくると思われる。
	雇用	求人開拓員	従前は求人を出していなかった企業も、徐々に求人募集するようになってきた。一方、物流関連は相変わらず、仕事は確保しているものの、原油高により利幅の獲得に苦戦しているようだ。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			客数増加が見込めないため、現状を維持するために独自のプランを組む等の努力を強いられている。
スーパー			回復する要因が見当たらない。
コンビニエンスストア			新規参入業態の集客力が上がっており、その影響力を考えると業況に変化はないと思う。
自動車販売店			年度替りの時期なので、買い替え需要等に期待しているが、市場が大きく伸びることはないと思う。
農産物直売所			極端に、良くなる・悪くなる要因が見つからない。
スーパー			政府税調の答申が、酒類間の税負担格差縮小を検討していることから、消費税を含む増税を睨んでいることは明らかであり、消費者の購買意欲は、当面低迷を続けられると思われる。
都市型ホテル			忘年会・新年会の予約状況やレストランの利用状況等が、前年に比べて伸びていないので、この先も変化は見られないと思う。
観光型ホテル			税制等に不安材料が残る。
旅行代理店			個人客は上向きだが、団体客は下向きという傾向は、今後も続くと思われる。

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	水戸市内は、昼夜を問わず客足が少ない。郊外に大型ショッピングセンターが出来たこともあり、客は分散化している。	
		ドライブイン	買い物客の数が増える気配もないし、消費者の財布のヒモが緩んでいるとも思えない。	
		パチンコ店	大きな変化が見られるように感じない。	
		レジャー施設	現在までの入場者数の推移を見ていくと、昨年と同じような傾向にあるので、景気も変わらないと思う。	
		住宅販売会社	来店者数にも変化がなく、売上げも変わらないのではないかと。	
	企業	製造業（食品）	特に景気が良くなる要素がない。	
		製造業（出版・印刷業）	特に目立った要素は見当たらない。	
		製造業（一般機械器具）	建機や自動車関連企業はまだ元気だが、業況は頂点を打ったのではないかと。このままの状況が続いて欲しい。	
		非製造業（輸送業）	新規貨物の獲得や荷主の新店舗開設、新製品の開発状況等を見ると、このまま好調に推移すると思われる。	
		非製造業（不動産業）	内原イオンモールのオープンにより、来客数の増加は見込まれるものの、法人の移動が少ないため売上げに大きな変化はないと思う。	
		非製造業（情報処理サービス）	政府税調の税制改正論議や日銀の量的緩和政策の転換等が、景気面にどのような影響を与えるか懸念される。原油の高値推移や個人消費意欲の減退を含めた警戒感から、徐々に市場の冷え込みに繋がることも考えられる。	
	雇用	人材派遣業	例年、年明けは市場が動かない傾向がある。	
		求人広告	製造業については、生産量が増えてきている話も聞くが、単価が引き下げられているため、売上げは上がらないという声がある。	
		公共職業安定所	10月末にダイエー水戸店が閉店し、大量の失業者が生じた。11月の雇用保険受給資格者決定件数は536件（対前年同月比15.5%）で、4ヶ月連続の増加となっている。	
		学校就業担当者	大手都市銀行等、民間の一部業種では景気回復のため過去最大の利益を上げているが、その一方で、公務員給与は人事院勧告に基づき一部引き下げられた。このことから考えると、社会全体としての景気がどの程度回復しているのか、又これから回復するのか判断するのは非常に難しい。	
	やや悪くなっている	家計	スーパー	大型店との競合により、客数低迷は暫く続くと思われる。
			レストラン	前年同時期と比べると、問合せ件数が少ない。また、問合せがあっても、少人数のものが多い。
			レストラン	来年春の新卒者やパート・アルバイトの採用に関しては、動きが出ているようだが、一方でボーナスの支給額は下がり、家計も厳しくなっているように思う。まだまだ景気が良くなるとは思えない。
			都市型ホテル	年末年始が過ぎ、また異動・卒業・入学期を控え、落ち着いた動向で推移すると思う。
タクシー運転手			観梅シーズンに入るが、年末に比べるとやはり人の動きは鈍くなる。	
タクシー運転手			年明けの3ヶ月は、例年売上げが最も落ちる時期である。	
ゴルフ場			予約申込件数に伸びが見られない。また、例年厳冬期には、景気動向に関係なく来場者数が落ち込むので、3ヶ月後の景気好転は期待できない。	
ゲームセンター			内原イオンモールのオープンに伴う客の減少及び、カードゲーム機が下げ基調になった可能性があり、今後売上げ増を見込むことは難しい。	
企業	非製造業（広告代理業）	広告による集客効果が下がっているため、販促予算をアップする企業は今後増えないと思う。		
悪くなっている	家計	商店街代表者	特に若年層や家族層が、新設の商業施設へ流れている。目新しさが落ち着くまでは、商店街の売上げは厳しい状態が続くと思う。	
		理・美容店	客の利用回数が伸びる要因がない。	
	企業	製造業（土石製品）	年末年始は例年受注量が減少する。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	企業	非製造業（輸送業）	来春、製品供給を潤沢に行えるよう、各メーカーが原料調達に走ると見込まれるため、保管貨物の需要は増加すると思う。荷主との値下げ交渉も一段落つき、貨物の動きは今後益々活発になっていくのではないかと。	
やや良くなっている	家計	スーパー	グレードの高い商品の売行きが好調である。	
		観光型ホテル	予約状況が多少上向いている。	
		洋食食堂	既に1月の予約が入っている。	
		クリーニング店	年度末、衣替え、卒業・入学式等の行事が多い時期なので、忙しくなると思う。	
		サービス業	将来に繋がる開発に対して、資金を費やす傾向が強くなっている。	
		ドライブイン	年々人気が高まっている地元産イチゴが最盛期を迎えるので、売上げ増を期待できる。	
	企業	農業関係者	葉物の需要が伸びれば、幾分良くなっていると予想される。	
		製造業（食品）	年度末や決算期を控え、多少良くなると思う。	
		製造業（窯業・土石製品）	鉄鋼業の3月期業績見込はバブル期を超える見通しである。汎用鋼材の在庫調整はあるものの、自動車や造船向け高級鋼材が価格引き上げにもかかわらず需要旺盛であり、堅調に推移すると思われる。また、来春新卒者を採用する企業が多数見受けられることから、一時期よりは回復基調にあると推測される。しかし、公共事業の縮小、ゼンコン関係の低迷に加え、耐震強度偽装問題による建設工事への影響を考えると、先行きは楽観視できない。	
		非製造業（金融業）	カーテン製造業で、多少業務が増加しているようだ。	
	雇用	求人開拓員	最近ようやく、原材料価格が高いなりに落ち着いてきたので、先行きに期待感を持つという話を聞くようになった。	
	変わらな	家計	小売業（金物店）	景気が良くなりそうな兆しが見えてこない。客の小売店離れ・大型店志向が定着した感がある。売上げの大半を工事店絡みの受注に依存しているため、今後大幅な売上げアップは期待できそうにない。
			商店街代表者	農産物価格の低迷は、この先も続きそうなので、景気にも変化はないと思われる。
			商店街代表者	大企業は、長年に渡ってコスト削減をしてきたため、関連下請企業は整理されたり、海外移転を余儀なくされた。かつての町工場には大勢の従業員がおり、彼らが商店街を支えていた。あのような時代はもう来ないのではないかと、商店街のあり方も変わらざるを得ないのかもしれない。
商店街代表者			景気回復への期待は大きいですが、現状から変化する要因が見当たらない。	
小売業（酒類）			景気は若干持ち直しているように思われるが、飲食店等の固定客による大量購入の回数が減っていることもあり、厳しい状況には変わりない。	
コンビニエンスストア			変化はなく、停滞ぎみなのではないか。	
コンビニエンスストア			株価等は良くなっているが、消費者の心理が変化するには暫く時間を要すると思う。景気好転は、早くても半年先頃になるのではないかと。	
農産物直売所			景気が変わる要素が感じられない。買控えの傾向は続くと思われる。	
スーパー			競合状態に変化がないと見込まれるので、売上げも同様に推移すると思われる。	
家電販売店			今後景気が上向くとは思えない。	
自動車販売店			株価は上昇しているが、鹿行地域には大きな影響はないと思う。とりえず横這いかなという感じ。	
専門スーパー			現状から推測して、景気が良くなる要因が見当たらない。	
小売業（菓子販売店）			景気が良くなる材料が見当たらない。	
タクシー運転手			乗客から、景気の良い話を聞くようにはなったが、社用でのタクシー利用は増えていない。	
割烹料理店	予約件数の増加も正月までで、それ以降は例年並に推移すると思われる。			
パチンコ店	年末年始には多少の動向変化があるが、これは例年のことであり、それ以外には特に変化はないと思う。			

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	家計	パチンコ店	年末効果もあり、売上げは多少上がると思う。だが、年明け以降に増収の見込みがないため、現状との変化は少ないと思う。
		クリーニング店	春の衣替え時期となり、一時的には上向くかもしれないが、大きな変化はないと思う。
		室内装飾業	景気が良くなる要素が見当たらない。
		住宅販売会社	株価の上昇に連動して金利も上昇しており、それを不安に思っている客が多いようだ。消費税率の改定についても関心が高い。
		住宅販売会社	将来への不安が払拭されるような要因が見当たらない。
	企業	水産業関係者	燃料価格の高騰により、収益が圧迫される状況は暫く継続すると思われる。
		製造業（印刷業）	景気が変化する要因が見当たらない。
		製造業（化学工業）	この先3ヶ月は、電気・蒸気の購入単価も変わる見込みはないので、収益も大きく変化しないと思う。
		製造業（食品）	まだまだ消費者の購買意欲は回復していない。
		製造業（金属製品）	補修工事等を積極的に行っている。今後も好調を維持していくと思う。
		製造業（電気機械器具）	1~3月期は稼働日数が少ないため、売上げは若干落ちるかもしれないが、大きな変化はないと思う。
		製造業（飼料製造）	重油価格の動向とドル高円安の行方が気掛かりである。
		非製造業（住宅設備施工業）	住宅関係の見積りを見ても、先行きは不透明である。
		非製造業（金融業）	一部の業種においては、大手企業の進出や新規事業の参入等による売上げ増が期待できるが、地元企業にはこれといった景気回復のカンフル剤もなく、資金繰りに忙しい状況が続くと思われる。
	非製造業（不動産業）	顧客からの住宅地の注文及び業者からの引合い等に全く活気がなく、景気が良くなる兆候がない。	
	雇用	人材派遣業	設備投資に対応する人材派遣の登録スタッフ不足は、今後も続くと思われる。特に、機械・電気設備工事の経験者を始め、現場作業への引合いが旺盛である。
		公共職業安定所	原油や原材料高の影響が出てくると思う。
		学校就業関係者	このまま良くなっていくとは思えない。
	やや悪くなっている	家計	小売業（薬品店）
書店			通信販売やディスカウント店で書籍を購入するケースが増え、来店する客数そのものが減少している。
スナック			これまで長年の敵寄せがボディブローのように効いてきている。今後良くなる気配は感じない。
観光型ホテル			予約状況から推測して、利用者数は減少すると思われる。
企業	製造業（化学工業）	更なる原油高による受注減、生産縮小を懸念している。	
悪	家計	ゴルフ場	長引く原油高は、生活・産業等のあらゆる面に影響を与え、結果的に景気は低迷するのではないかと。
		日本料理店	同業者から話を聞いても、あまり客は入っていない様子だった。鹿行地区では、飲食業界全体が低迷しており、先行きに明るさは見えない。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	家電販売店	12月1日より、県南部地域では地上波デジタル放送が見られるようになるので、高画質・多機能な放送を楽しむ(楽しみたい)というニーズが増えると思われる、これに伴う家電製品の売上げ増が期待できる。
やや良くなっている	家計	スーパー	飲食店関係の顧客から、悲観的な言葉を聞くことが少なくなった。
		スーパー	同一地区内への競合他社の出店予定が今の所ないので、自社の努力次第で売上げ増を目論むことができるのではないかと。
		スーパー	スーパーのテナント店長に話を聞いたところ、客数・売上げとも昨年より増加しているとのことだった。
		コンビニエンスストア	日経平均株価は上がり続けており、景気も底入れしたと報道されているが、店でも品質の良い商品は価格が高くても売れるようになってきた。
		衣料品・身の回り品販売店	昨年は冬物の売上げがダウンしたが、今年は11月以降、冬物商戦が好調に推移している。この傾向は今後も継続すると思われる。
		自動車販売店	3月の決算期を迎えるので、期待感も大きい。
		専門スーパー	客数・客単価の伸びは、年明け後も暫く継続すると思われる。
		洋食食堂	大手企業に勤務する若夫婦で、最近家や土地を買ったという客が何組かいた。また、来年は地価があがるだろうという声も聞かれる。
		都市型ホテル	テレビ等メディアに動かされることが多いものの、消費者の動向には景気回復の兆しが見え始めており、先行きは良くなるのではないかと。
		旅行代理店	春先に向けて客が動く時期であり、また新商品の発表時期でもある。
		タクシー運転手	祝祭日や春休み等、休日が比較的多い時期であり、客数が増加すると見込まれる。
		タクシー運転手	春先に向けて、筑波山への観光客が増加すると見込まれる。
		ゴルフ場	土・日のゲスト予約が増えている。また、予約を早目にしてもらえるようになった。利用者目的のほとんどが社用接待であることから見ても、景気は上昇傾向にあるのではないかと。
		パチンコ店	来春給与のペアアップ等により、消費者の購買意欲が上向くことを期待している。
		建築設計事務所	仕事の量が徐々に増加気味である。
いる	企業	製造業(食品)	大きな期待は持てないものの、季節要因と新規取引のため、多少の売上げ増を見込んでいる。
		製造業(窯業・土石製品)	原油価格にも上げ止まりの感が見え、年度末の需要期も混乱なく対応できると思う。
		製造業(一般機械器具)	株価の上昇や円安等、製造業にとって追い風の状態は、暫く継続すると思われる。春先にかけて新製品の立ち上げが相次ぐので、今後も売上げ増が期待できる。
		非製造業(建設業)	業種間の格差はあるものの、見積り依頼件数はまだまだ乏しい状況である。但し、ビールや自動車関連については、見積り件数が1~2ヶ月前の2倍近くに急増している。現在の見積りが2~3ヶ月先の売上げに繋がってくるので、多少期待できると思う。
		非製造業(建設業)	下請け業者に見積りを依頼しても、業務多忙のため、なかなか見積書がでてこなくなった。こんな所からも景気が上向いてきたように感じる。
		非製造業(不動産業)	大手企業の収益増や株価の高値等により、イメージは良くなっていくと思う。
		非製造業(金融業)	年明けから春先にかけては季節的要因から、消費マインドの盛り上がり期待できる。また、年度末に向けての資金需要も若干だが期待できるのではないかと。
		雇用	雇用
求人広告	全体的に市場は活発になっているので、年が変われば少しは上向いてくるのではないかとと思う。		
公共職業安定所	県南地区への進出企業(製造業)や、つくばエクスプレス沿線での出店情報等、先行き雇用に期待感が持てる。		

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : まだった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	例年11～3月頃は、売上額が同程度で推移している。
		コンビニエンスストア	良くなる要素が見当たらない。卒業・進学・就職・引越のシーズンになり、固定客が離れ、売上げが今以上にシビアになる可能性も考えられる。
		農産物直売所	野菜の安値は暫く続くと思われるので、売上げ不振も当面継続するのではないかと。
		農産物直売所	今年は米価も安値で、農産物も値上がりする見込みがないため、この先も景気は変わらないと思う。
		ガソリンスタンド	冬季(11～2月)は灯油の販売があるため、売上げは高水準で持続する見込み。
		洋食食堂	夜の宴会でも、ノンアルコールビールやウーロン茶等のオーダーが多く、売上げが伸び悩んでいる。また、相変わらず平日の客足が伸びない。
		和食食堂	景気が良くなる要因がない。
		都市型ホテル	宿泊稼働は増えると見込まれるが、インターネット予約割引の利用者が多くなり、全体としては変化がないと思う。
		タクシー運転手	一般企業の需要は横這い状態であり、観光シーズンも外れているため、客足は伸びないと思われる。
		タクシー運転手	消費税やタバコ税、酒税等の増税が議論される等、先行きに不安感があるので、消費が大幅に改善することはないのではないかと。
		タクシー運転手	年末年始の一時的な伸びは、3ヶ月先まで持続せず元に戻るのではないかと。交通費まで金が回る余裕はまだないと思う。
		ゴルフ場	ここ数ヶ月の来場者数は前年に比べ増加しているが、まだ確実に景気が良くなっているとは言い切れない。
		ゲームセンター	今後も商業施設の集客力に変化はないと考える。
		住宅販売会社	特に大きな動きはないと思う。
企業	企業	農業関係者	老舗の地元建設会社が倒産した。例年に比べて年末の道路工事が少ないのも、地域経済の「息切れ」かと不安になる。この先も良くなっているとは思えない。
		製造業(コンクリート製造業)	企業の業績回復はコストダウンの結果であり、雇用の改善や賃金の増加等により、個人消費が伸びないと景気の回復は遅れると思う。
		非製造業(建設業)	利益率の関係で、あまり売上げは変わらないと思う。
		非製造業(輸送業)	荷主によっては在庫を持つ可能性もあるが、年度末工場で生産調整するという情報もあり、貨物によっては輸送が下降するのではないかと。特定貨物のみが期待できそうである。
雇用	学校就業関係者	今後3ヶ月では、求人や就職者数が増加しても、景気に反映されるまでは行かないと思う。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	青果物が安値で推移していること及び原油高が続いていることに不安を覚える。
		小売業(各種食料品)	客数が減少しているうえ、客単価も下がっているため、売上増は期待できない。
		寿司店	取引があるパン屋も酒屋も居酒屋も、個人商店は押し並べて元気がなく、いつ店を閉めようか思案しているという話を聞く。
		旅行代理店	冬季ボーナスの支給額如何によっては、回復の見込みがあるかもしれないが、昨年に比べ旅行者数が減少しているうえ、例年2月頃は客足が落ちる。また最近では、スキーツアーの手配を代理店に頼まず、自分で済ませる客が増えている。
		レジャー施設	例年にも増して寒いので、来場者数の減少が懸念される。
		理・美容店	後継者不足やリストラ等のマイナス経営が、顧客満足度に影響するのではないかと懸念している。
		企業	企業
製造業(食品)	特別な要素がない限り、例年1～3月期は売上げが落ち込むと予想される。		
製造業(金属製品)	第4四半期(1～3月)は、在庫調整の時期に入るため、受注は落ち込みそうである。		
悪	企業	製造業(食品)	「つくばエクスプレスに1度乗ってみたい」という客は多かったが、リピーターは少ないと思う。昨年同期よりは増加するとしても、例年どおり年明け以降は売上げが落ち込むのではないかと。

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : まだった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	スーパー	設備投資が増加することは、景気を回復させる大きな要因になる。また11月以降、株価の値上がりが続いており、今後景気は良くなっていくのではないかと感じる。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	今年は寒さが厳しいため、冬物衣料の動きが良さそうである。また、近くの工業団地に勤務している人が、冬季ボーナスの支給額は期待できそうだと話していたことから、消費は拡大するのではないかと感じる。
		スーパー	客の声から判断して、やや景気は上向いているように感じる。また、買上点数も多くなってきている。
		衣料品専門店	株価の大幅続伸のため、大喜びしている投資家がいる。サラリーマンも冬季ボーナスが支給されたので、多少金回りが良くなると思う。
		農産物直売所	冬季は寒さのため、外に出る機会自体が減るように思う。寒さが緩めば客足も少し改善するのではないかと感じる。
		洋食食堂	職種にもよるが、大工等は仕事が多く忙しいようである。また、他地域への出店を予定している店舗もあるらしい。
		和食レストラン	競争相手は多いが、客も十分検討したうえで店を選んでおり、企業努力によっては集客可能だと思う。これからは飲食店も収支の良い店と悪い店に二極化していくのではないかと感じる。
		タクシー運転手	年度末となり、卒業式、謝恩会、会社等では異動による送別会等が重なり、忙しくなると思われる。
		ドライブイン	花の咲く季節になると、心の中も明るくなり、旅行や行楽等の人も増え、それなりに消費も拡大するのではないかと期待している。
		建築設計事務所	大企業の増収増益が、県西地域にも浸透してきた。
	企業	製造業（石材業）	円安で競争力がつき、国内加工の仕事が増えることを期待している。但し、海外業者とは人件費で50～100倍もの差があるので、期待通りにはいかないかもしれない。
		非製造業（不動産業）	流通業等の商戦が、昨年よりも活発化しているように思う。
	雇用	求人広告	期末が近いので、多少採用を控える企業もあると思うが、雇用環境は概ね良好に推移するのではないかと感じる。
		学校就業関係者	金型関連会社での量産型発注が多くなっていると聞く。また、少しずつガソリン価格が下がってきたので、物流業界でもこれから良くなっていくのではないかと感じる。
変わらない	家計	商店街代表者	この街に、客の流出を食い止める新しい魅力が生まれる気配はない。
		コンビニエンスストア	景気が回復しているという実感がなく、かといって悪化している訳でもない。
		家電販売店	客単価が前年よりダウンし、必要な商品だけ購入する傾向は当面続くと思われる。
		ガソリンスタンド	ガソリンのように品質の差異が判り難い商品は、価格に対して消費者が益々シビアになり、セルフスタンドへ客が流れていくのではないかと感じる。一方で、製造業や運送業等の企業需要は堅調に推移するとされる。
		和食食堂	ここ1年程度、客単価が低下傾向にあるため、客数を増やす具体策を出していないと、売上げを昨年と同水準に維持するのは厳しい。
		都市型ホテル	このままの状態が変わらず3ヶ月前経過すると思う。
		旅行代理店	客の動きが鈍い時期でもあり、あまり景気の変化を感じない。
		タクシー運転手	年末年始が過ぎれば、商店街やビジネス客の様子も平常通りになると思う。
		ドライブイン	上場企業の業績は良くなっているが、地方の中小企業は厳しい状況が続くと思われる。
		ゴルフ場	予約状況から判断して、今後も景気に変化はないように思う。
		レジャー施設	11月にオープンした内原イオンモール等、近年商業施設は大型化している反面、閉店する店舗も多い。業況が回復している企業とそうでない企業の格差が大きくなっていると感じる。
		理・美容店	客からも、忙しいという話をあまり聞かない。
		住宅販売会社	特に変化はない。

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	農業関係者	生産物の出荷時期が4月以降になるため、売上げは春まで変化がないと思う。
		農業関係者	来年度の就職・採用率が伸びていないので、景気も横這いではないか。
		製造業（食品）	原油高騰によるポリ袋等包装資材価格の末端への値上げ要請が激しくなってきたが、製品の販売価格に転嫁できる状況にはなっていない。
		製造業（印刷業）	以前は大企業が好況になれば、半年から1年後には地方にも波及していたものだが、最近業績のために下請け・中小企業を切り捨てる親企業が多くなり、地方への波及効果を期待し難くなった。市場経済の自由化といえは聞こえは良いが、このままでは勝ち組と負け組の格差が一層鮮明になり、将来に希望を持っていない者の不満が鬱積し、引いては犯罪の多発等、節度のない社会になるのではないかと懸念している。
		製造業（石材業）	かつては大企業の好況の影響は、1年遅れで石材業界にも及ぶと言われていたが、石材流通の流れが変わってしまったので、今はその影響もあまり期待できないと思う。
		製造業（金属製品）	今後暫くは、現在の受注量が続くと思う。
		製造業（一般機械器具）	業種によっては景気の良い話も聞くが、小規模な製造業では日々仕事探しに苦労しているようだ。
		製造業（電気機械器具）	今後も特に景気に変化する要素が見当たらない。
		製造業（印刷業）	官公庁関係の受注価格が低落を続けており、歯止めが利かない。
		非製造業（金融業）	設備投資等が増える見込みは少なく、景気が上向くとは依然として思えない。
		非製造業（広告業）	少しずつ良くなっていくのではないか。景気の良い所が増えてきているように思う。
		非製造業（コンサルタント業）	原油高騰の影響で、業種によっては瀕死状態のところ、税法改正の動きが追い討ちをかけるのではないかと。将来に不安があると、景気回復は難しいと思う。
	雇用	人材派遣業	企業により多少の違いはあるものの、例年あまり変化はないようである。
公共職業安定所		例年、年度末にかけては離職者が増加する傾向があるので、今月より雇用環境が良くなるとは思えない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	12月中旬、近隣に競合店がオープンするため、オーバーストア状態となることが予想される。
		コンビニエンスストア	企業の業績は次第に回復しているが、政府の増税案により、個人負担増懸念や将来不安のため、今以上に消費意欲が減退すると予想される。
		自動車販売店	個人のガソリンスタンドや商店に全く活気が感じられない。
		寿司店	1ヶ月の来店回数が、特にランチ時間帯で減っている。夜の客単価も落ちている。
		タクシー運転手	例年、春先は客数が伸びない。
		ゲームセンター	県央地区の大型商業施設への客の流出は、当面続くと思われる。また、周辺に大型アミューズメント施設が2店舗あり、影響を受けている。
		パチンコ店	労働時間が増加するのに伴い、余暇が減少するのではないかと。
		理・美容店	一般の景気が上向いていても、低料金の店が増える傾向にあり、現状を維持していくのが精一杯である。今後、売上げが伸びる可能性は非常に少ない。
企業	製造業（食品）	BSE、鳥インフルエンザ、中国における野菜の残留農薬や河川の汚染等、食を取り巻く環境では、巷の好況とは全く正反対の事件ばかり発生している。	
	製造業（化学工業）	1～3月は、在庫調整等による反落が懸念される。	
悪	家計	クリーニング店	厳しい寒さとならなければ、冬物衣料が増えない。

景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家	スーパー	新車の購入や生活条件の良い場所での新築住宅建設をよく見かける。使うべきところ、自分にとって価値のあることについては、出費を惜しまない傾向が伺える。
	コンビニエンスストア	中小企業の仕事が増加しているときく。また、冬季ボーナスの支給額も増加しているようなので、今後の消費拡大に期待したい。
	家電販売店	客は商品価格に敏感になっている。良い物を安く買うために、複数の店を回り価格を比較して、最安値で購入する人が多い。一発成約する人は非常に稀である。
	ガソリンスタンド	このまま原材料価格の値上がりとデフレが続けば、経営に破綻をきたすところも出てきかねない。政府が抜本的な対策をしないと大変なことになるのではないか。
	小売業（酒類）	酒類専門店化により、商品管理・商品知識・品揃えについて、本物嗜好の客の来店が目につく。
	小売業（土産物）	イトーヨーカドーやカスミ、ジャスコ等の大型店が閉店し、街はひっそりしてしまった。冬季ボーナスも期待程は支給されず、将来的な不安（税金、医療費、年金）もあり、欲求どおりに金を使う心境ではない。
	レストラン	地元の大手企業や関連町工場では少しずつ景気が良くなっているようだが、近隣飲食店まで余波は届いていない。伊勢甚デパートの跡地利用も決まっておらず、街は静かである。
	居酒屋	企業の宴会で昨年より高額のコースを選ぶ幹事が多いことから、景気は回復傾向にあると感じる。
	スナック	行事がないと、表に出ない人が増えたように思う。以前のように連れ立って2~3人で飲む人もあまり見かけなくなった。
	食堂	最近、日立駅周辺にマンションやアパートが次々に建設されている。マンションの売行きは好調のようなので、これをきっかけに県北地域の経済が活性化することを期待している。
計	居酒屋	県北地区では最近、ジャスコやイトーヨーカドー等大型店の閉店が相次いだ。今のところ、跡地へ進出する企業の話は聞かないが、早期に決定して地域経済を活性化してほしい。
	観光型ホテル	県北では、これからアンコウ鍋の季節であり、観光客もこれを目当てにしているようだ。平日、地魚料理の店を回ってみたら、どこも満席状態であった。良いものを提供すれば、客はその価値を判り、求めてくると感じた。サービス業は景気動向に左右され易い業種だが、有形・無形を問わず客にとって価値のあるものを提供し続けることが何より大切であり、それが景気に左右され難い店造りにも繋がると思う。景気低迷を嘆くより、店造りを見直す方が、売上げアップへの近道なのではないか。
関連	観光型ホテル	観光業は天候等に左右されやすいため、先が読みにくい。
	タクシー運転手	ガソリン価格の高騰により、自家用車の利用を控える傾向があるが、これに伴いタクシーの利用需要が増加することを期待したい。
	タクシー運転手	駅前に送迎の自家用車が増加しているように感じる。
	タクシー運転手	地元企業の工場内に、発電所が新設されたり、工場棟が増設されたり、人員も100~150人程度増員されるらしい。これから暫く好景気は継続するのではないか。
	タクシー運転手	客からも「景気が良くなる材料がない」との声が聞かれ、先行きが益々厳しくなるように思う。
	ドライブイン	相変わらず積極的な消費行動は見られないが、高額でも必要であればポンと購入する傾向も従来どおりである。
	ゴルフ場	季節的に来場者が増加している影響もあり、以前と比較すると、店内ショップの利用客が多少増加している。
	ゲームセンター	消費税が上がる前に工事をしようとする人が多いのか、周囲でリフォーム・改築が多数見られる。
理・美容店	理・美容店	新しい商業施設の建設計画があるという話を聞いた。
	理・美容店	先日、ハローワークの前を通ったら、駐車場に入りきれない程込んでいた。地方では未就労者がまだまだ多いようだ。早く景気が好転することを期待している。
	クリーニング店	カード形式のゲーム目当てに、ゲームセンターやおもちゃ屋に子供が行列しているの見える。子供向け商品は、ヒットすれば景気は関係ないのだろう。
	住宅販売会社	消費税の税率引き上げについて、話題にする客が増加したように思う。

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関 連	水産業関係者	水産業に対する金融機関の対応が厳しすぎる。このままでは、漁港を抱える町全体が停滞してしまう。水産金融を活性化させるよう、行政の働きかけを期待したい。
	製造業（電気機械器具）	日立駅を中心として、マンション建設や相次いでいる。当社周辺でもアパート建設や新規建売住宅の販売が目につく。
	製造業（電気機械器具）	好決算企業の設備改修が多くなっている。また、バブル期の設備投資物件が本格的にリニューアル時期に入ったようだ。
	製造業（電気機械器具）	知り合いの輸送業者が、原油価格の高騰と仕事の減少のため、工業団地から撤退することになった。
	製造業（電気機械器具）	大掛かりな生産設備を取り込む企業の話が、会話の中で多く聞かれるようになった。
	非製造業（建設業）	ある不動産会社は、土地（宅地）を規模を問わず、積極的に購入しているらしい。
	非製造業（建設業）	少しでも交流し、次のステップへ進もうという営業目的もあり、事業者や民間企業が積極的に忘年会を催しているようだ。
	非製造業（不動産業）	地方では、まだまだ活力が戻っていないように感じるが、商業施設の新設計画を数件耳にした。
雇 用 関 連	学校就業関係者	団塊の世代が一斉に定年退職を迎える2007年を前に、企業の後継者育成及び退職者をターゲットにした業界の動きが活発化するのではないか。
	人材派遣業	社員の福利厚生充実やプライバシーマークの取得等、不景気な時には見られなかったインフラ整備に企業が力を注ぐようになった。
	求人开拓員	分譲住宅販売会社では、売り出し後に即売したとのこと。購入者層は団塊の世代ジュニアが多いらしい。建設された場所や販売価格が適切だったこともあるが、親の退職金が住宅購入の後押しとして影響したのではないかと。
	求人広告	県北西部では医療介護施設等の充実、北東部では慢性的な渋滞が景気に影響しているように感じる。県北地域の各企業とも、単発的にしか売上げを見込めないのが現状のようだ。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家	商店街代表者	内原に大型ショッピングセンターができ、日常の話題になっている。今のところは購買目的というより、物珍しさもありレジヤースポットとして何度も足を運ぶ人が多いようだ。来春には水戸市内にも大型百貨店がオープンするので、消費者動向の変化に注目したい。
	商店街代表者	水戸の中心市街地を活性化するためには、ダイエー及びユニーの跡地利用を早急に進めることが必須だと思う。また、従来のようなコンパクトな生活スタイルや中心市街地の賑わいを取り戻すためには、大型商業施設の出店規制等の行政施策も必要なのではないか。
	百貨店、総合スーパー	11月上旬に内原イオンモールがオープンし、売上げダウンを覚悟していたが、むしろ前年を大幅に上回る好調な結果となった。イオンモールのオープンにより、県央地区の流通が活発化し、それが消費者の購買意欲を喚起させるきっかけになったのではないかと。
	スーパー	土・日・祝祭日の来店客が減少した。
	スーパー	セール品・特売品がマンネリ化していることに加え、不景気感から客も買い控え傾向にあるようだ。
	スーパー	ある程度リストラが進んだ企業では、新しい人材の採用に積極的になってきているが、それ以外の企業では未だに人減らし傾向が続いている。
	コンビニエンスストア	商品価値の高いものが売れている。
	専門スーパー	釘、ボルト、建築金物等の建築資材の動きが、先月より悪くなっている。
	自動車販売店	建築・土木関係の客からは、業況は非常に厳しく、今後益々苦しくなるとの声が聞かれた。
	農産物直売所	毎年この時期には、焼きイモ用の薪を木材加工業者へ買いに行っているが、今年は業者が例年になく忙しそうに見える。
計	スーパー	公的資金を投入し、不良債権を回収した大手銀行や大手企業は回復したが、中小企業は未だ業績回復には至っていないと思う。また最近では、10代後半～20代前半のフリーターやニートに加え、40～50代の失業者も多い気がする。
	専門スーパー	以前にも増して「良い物を望む客」と「安い物を望む客」の二極化が進行しているように感じる。
	ファミリーレストラン	原油価格の高騰に伴い、物流費や包材材料が値上がり傾向にある。
	割烹料理店	郊外の大型店に客足が流れ、水戸市街地を訪れる人数が減っている。
関	レストラン	冬季ボーナスについて話していると「昨年より少なかった」とか「夏より下がった」という声が多い。「賞与が出るだけまし」という声もあった。
	観光型ホテル	株価の上昇等で雰囲気的に明るさが見られる。
連	タクシー運転手	冬季ボーナスの時期になっても、客からは芳しい話を聞かない。ボーナスを出さない企業が多くなっているようだ。
	タクシー運転手	南町、石川町の大店舗閉店及び赤塚地区の新店舗開店に伴い、地域の小規模店が閉店に追い込まれており、高齢者や車の運転ができない者にとって、買物が不便になっているようだ。
	タクシー運転手	規制緩和により、水戸市にタクシー会社が新たに3社できた。これに伴い、中小の会社は大手に吸収されている。自社では、生き残りを賭けて、接客時の様々なサービスを検討中である。
	ドライブイン	今年の年末は、新巻鮭の売行きが良くない。昨年より値段が高いうえ、切るのが面倒だと敬遠する向きもあるようだ。
	観光名所	ここ数ヶ月、前年と比べて、人出はあるが売上げが伸びない状況が続いている。景気回復の実感が無い。
	ゴルフ場	業界的には回復基調と言われているが、プレー価格を高いと感じるプレイヤーが多いのか、電話で料金を確認した途端に予約を取り消される場合がある。平日5,000円引の特別優待券の効果もあまり見られない。
ゲームセンター	女性から圧倒的な支持があったプリクラが衰退の域に差し掛かっている。また、カードゲーム機の設置箇所や台数が増え、ゲーム業界以外との競争が始まった感がある。	
レジャー施設	大洗マリーナの近隣に、平成18年3月オープン予定で、アウトレットモールの新築工事が始まった。来年度は、この地区に賑わいができ、マリーナ利用者の拡大にも期待している。	

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	レジャー施設	3月にアウトレットショッピングモールがオープンするため、周辺施設では集客に期待している。
	理・美容店	最近あちこちで、大型店に関する話題を耳にする。
	建築設計事務所	内原イオンモールのオープンにより、水戸市中心市街地の店舗は経営に苦戦しているようだ。
企業関連	製造業（食品）	安全・安心な食材（特に生鮮食品）を求める傾向が見られる。
	製造業（金属製品）	企業の大小を問わず、勝組・負組の差が鮮明になってきた。これに伴い、株式取引や宝くじ等の副収入に期待する人も増えた気がする。
	製造業（一般機械器具）	内原イオンモールのオープンに伴い、周辺道路の交通量が増加している。近所の蕎麦屋でも客が増えたらしい。見物客も含め、客入りは上々のようだ。
	製造業（一般機械器具）	工場現場設置型の品質管理用装置の引き合いが好調である。また、水の汚れを自動で測定する装置も、最近出荷台数が伸びている。水質測定は手動でも可能だが、測定検体が増加してくると機械化した方が効率的である。高価な装置だが、民間企業の設備投資拡大の一環で、導入する企業が増えているものと思われる。
	非製造業（建設業）	県南地区の不動産高騰が目覚ましい。県央地区が勢いで負けているように感じる。水戸市を中心として、県央地区でも景気対策に本腰を入れなければ、県南地区に益々差をつけられてしまうのでは危惧している。
	非製造業（輸送業）	求人広告欄に、運送会社の募集広告が1年前に比べると非常に多く掲載されているように感じる。
	非製造業（金融業）	10月末、水戸市商店街の中心地でダイエー水戸店が閉店し、翌月、郊外の内原町にイオンモールがオープンした。来年3月には、京成百貨店が開店予定である。顧客動向及び売上げがどのように変化するか注目している。
	非製造業（広告代理業）	水戸周辺の大型ショッピングセンターには客が集まっているが、その分既存店の売上げが伸びていない。地域の景気そのものが上向いているとは思えない。
雇用関連	非製造業（コンサルタント業）	瞬間的取引見られるが、水戸市内及び水戸駅南地区の土地について、売買価格が昨年比で倍になっている。
	求人開拓員	全般的に企業の受注量は増加しているものの、一部の精密部品メーカーの下請企業では、親会社の海外調達により受注量が減少しており、回復していない。また、県央地域では、大型店の出店が相次いでおり、今後益々小規模小売店との格差が生じるのではないかと懸念される。
	求人広告	新しい店舗が出来ることで、働く機会・場所が増え、人材を求める会社も増えていると感じる。
	公共職業安定所	平成18年3月卒業予定者の高卒用求人受理件数は、11月末現在で1,153件、対前年同月比で28.7%増加している。また最近、水戸中央郵便局（年末年始の郵便業務のため、郵便物区分員として33人・配達員として95人）やエコス（11月30日城里町に閉店したショッピングセンターの販売員として50人）、県庁（国勢調査の集計事務補助臨時職員として90人）による大量求人があった。
学校就業担当者	10月末にダイエー水戸店が閉店した。ユニーと併せ、水戸市中心部で閉店中の大型店は2店舗になった。現在、泉町の再開発と絡んで新しいビルが建築中だが、これもかつての伊勢基デパートの跡地を利用しているので、結局3つの大型店が水戸市中心部から撤退したことになる。中心部活性化のためにも、跡地利用は積極的に行うべきだが、空ビルの利用にあたっては、社会通念上好ましくない施設や団体等が入らないよう、行政側も細心の注意を払うべきではないか。	

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家	小売業（金物店）	客足・売上が低調な原因は、景気動向というより、消費行動の変化など構造的な要因と思われる。地域小売店においては、景気の良し悪しが、即売上げに影響するとは考え難い。
	商店街代表者	都市部と地方に景気の格差があると感じる。
	商店街代表者	商圏内に居住する大企業の社員は、学齢児童を養育中の年齢層なので、教育費や生活環境費へ比重が重く、買回り品にはあまり使われていないように思う。
	商店街代表者	株価が一人歩きしているようで却って不安になる。バブル混乱期のようにならないことを祈りたい。
	小売業（酒類）	飲食店等の固定客による大量購入は明らかに減少しており、業種によって景気の違いが出ていると感じる。
	コンビニエンスストア	現在の消費行動は、「価格」ではなく「価値」に重点が置かれていると感じる。高くても良いものは売れる。しかし、安くても良いものが出てくれば、高い方は売れなくなる。全体的に、限られたパイを取り合っている状態だと思う。
	コンビニエンスストア	企業間の歳暮等贈答品の動きは大変少なくなっている。一方、飲食店は混み合っている所が多い。
	自動車販売店	年末だが、今年は例年に比べ、道路工事等の公共事業が少ないように思う。
	書店	商店街の歳末セールを計画したが、資金・人員・準備期間の不足を理由に、今年も中止になった。参加店数が減少しているため、大きなイベントを開催するのが困難な状況であるが、抽選所の景品内容を工夫する等して、来年は集客力のあるイベントを実施したい。
	計	スナック
小売業（菓子販売店）		商店街で、また数件の店が閉店した。最近、商店街を経由していたバスも廃線となり、歩いている人もまばらで、「シャッター通り商店街」と呼びたくなる様相である。平日も閑散としているが、特に土・日曜日は酷い。
タクシー運転手		高齢者が通院する際、タクシーを利用する回数が少なくなったように思う。
関	観光名所職員	最近放映されたテレビ番組で取り上げられた店は、客が急増して嬉しい悲鳴をあげている。消費者はいろんなものに興味を持っており、マスコミ情報にも敏感なようだ。
	洋食食堂	県経営品質協議会に入会した。会主催の講演会等に参加し大きな影響を受けた。会場には、組織の大小、年齢・男女の別なく沢山の人が参加しており、より良い店を作ろうと頑張る経営者や、成功事例のノウハウを真剣に学ぼうとするスタッフ等の熱意で溢れている。講演内容も、現場の第一線で活躍する人ならではの話が多く、目からウロコが落ちる思いだった。「不景気だから売れない」のではなく、「やり方次第で可能性はある」ということを改めて確認した。原因を外（景気等）に求めるのではなく、内（店や自分自身）に探れば、今後の方針・努力の方向も明確になると思う。
連	割烹料理店	鹿島神宮駅周辺にイルミネーションが灯され、多少は明るい雰囲気になった。これから正月に向けて、参拝客等の来店を期待している。
	日本料理店	客は味や店の雰囲気等ではなく、値段で店を選んでいる。結果として安い店に客が流れている。
	クリーニング店	景気の良い時期に借金をした人や保証人になった人が、返済に行き詰まり、トラクターや自動車、土地等の財産を手放したという話を耳にする機会が増えた。平均株価が10,500円まで上がり、個人投資家が周辺に増えてきた。
	室内装飾業	少数だが、若い人が家を建てているようだ。
	サービス業	自動車部品メーカーの動きが活発になっていると感じる。
	住宅販売会社	今年は例年に比べ、クリスマスの電飾を施した家庭が多いような印象を受ける。
	ドライブイン	やや高くても品質の良い商品を求める客が、若干増えてきたように思う。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企 業 関 連	農業関係者	今年は野菜類の出来が良かったために安値が続き、いわゆる「豊作貧乏」になり困っている。
	水産業関係者	水産加工品の出荷・販売は、多少スムーズに動くようになってきた。
	製造業（化学工業）	冬季ボーナスは昨年よりも増える見込みである。
	製造業（金属製品）	酒税・たばこ税の増税が議論されているが、景気の押し下げ要因にならないか不安である。
	製造業（電気機械器具）	原油価格が高止まりだが、商品単価には反映されていないので損益的に厳しい状況である。
	製造業（飼料製造）	業界全体を挙げて、鳥インフルエンザの拡散予防に取り組んでいる。
	製造業（化学工業）	最近郊外に大型スーパーの出店がある一方、繁華街のデパートが閉鎖された。景気は上昇傾向というが、原油価格の高止まりもあり、消費者の価格重視傾向は変わっていない。今後、益々の企業努力が求められるのではないかと。
	非製造業（住宅設備施工業）	顧客との会話でも、忙しくて困るという声はあまり聞かない。
	非製造業（輸送業）	商品の保存・運搬に対する安全性・正確性・保存状態等について、荷主のチェックが非常に厳しくなっている。適正な管理能力はもちろん、商品の特性を把握したうえで、ジャスト・イン・タイムに配送する物流効果能力も問われるようになった。これからは、荷主の要請に応えられるだけの注意義務と即応力が顧客獲得の鍵になるだろう。
	非製造業（金融業）	小売業、不動産業等において二極化傾向が進んでおり、勝ち組と負け組の格差が拡大している。また、利幅が縮小しているため、優良顧客の取り込みに社運を賭けている企業も多い。
非製造業（金融業）	9月2日に行方市が誕生したが、今のところ合併による変化は見られない。	
非製造業（不動産業）	周囲で景気の良い人は、株式売買をしているだけである。彼らもバブル時に痛手を蒙っているため不動産を購入するまでには至っていない。	
雇 用 関 連	公共職業安定所	来春の新規高卒者内定状況は、全般的に改善しているが、女子生徒については依然として厳しい状況である。
	学校就業関係者	休日返上で仕事をしている企業が多い。
	求人开拓員	訪問事業所から、新卒採用を予定しているという話を昨年より多く聞くように思う。

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家	スーパー	1品単価の下落が続いており、買上点数が増加しても、売上げ全体では減少してしまう。客は安いからといって余分に買うこともなく、1人あたりの売上額に変化はない。
	スーパー	昨年は新卒をあまり採らなかった近くの工業団地が、今年は積極的に採用しているようだ。また、スーパーでバイトしている高校生は、就職を希望すれば全員内定をもらえたらしい。昨年はとても厳しい感があったので、こうした点からも多少は景気が良くなっているのだと感じる。
	衣料品・身の回り品販売店	特売広告チラシでの売上げ比率が下がっている。
	家電販売店	12月1日より、東京タワーの電波がフルパワーになったので、県南地区の家電業界は一気に盛り上がると思う。
	農産物直売所	長年の販売経験から、景気の悪い時は小銭が増える傾向があるが、今般まさにその状況である。万札は少なく、小銭で支払う客が多い。
	農産物直売所	一般的には、株価の上昇により景気が回復傾向だと考えられているが、農家の景気を図る指標は米価・農産物価格である。今年はどちらも安価で、今後値上がりする見込みもない。
	ガソリンスタンド	つくばエクスプレス開業以降、つくば市内・土浦駅間のタクシー利用が減少し、土浦市内のタクシー業界では売上げが20～30%減少したらしい。
	洋食食堂	先日つくばエクスプレスに乗り、土浦 - 筑波 - 秋葉原 - 東京を廻ったが、日曜日ということもあり、かなりの人出だった。車内では登山靴・リュック姿の乗客も多数見受けられた。これからは、筑波山を基点とした観光産業の活性化にも期待したい。
	寿司店	12月上旬、地元商店街の店主12名が集まり忘年会を催した。最近の事件等について色々話したが、景気については「回復感が実感として全くない」という意見で全員一致した。
	都市型ホテル	エリアの特徴として、つくばエクスプレスの影響が大きい。駅周辺には、中高年夫婦の姿が多く見られるようになった。
開	旅行代理店	テナントに入っているショッピングセンター自体に客が少ない。特に平日の来店者が減っている。
	タクシー運転手	マイカーでの送迎や高齢者用介護福祉施設の送迎車が増加し、タクシーを利用者が減ってきたように思う。
	タクシー運転手	つくばエクスプレス開業による影響が予想よりも大きかった。
	タクシー運転手	つくばエクスプレスの開業が県南地区の交通・運輸業界に与えた影響は大きい。
連	タクシー運転手	龍ヶ崎ニュータウンもほぼ完成し、店舗も増えてきたので、利用客が増えることを期待している。
	ゴルフ場	場内での飲食、商品の売上げが増加しており、取引先の近隣商店でも売上げが伸びているとのことだった。
	ゴルフ場	定価の割安感がある商品は、売店等で良く売れるようになった。
	理・美容店	12月上旬、地元の各商店街役員が集まった席で、株価の上昇や企業の業績回復等が報道されているが、個人商店の景気は相変わらず良くない、客が少ない等の意見が多数出た。
	理・美容店	土浦市役所・商工会・地元飲食店が一体となって、土浦を「カレーの街」にする取り組み（『つちうらカレー物語』）が行われている。10月5～6日に、土浦市産業祭と同時開催された「土浦カレーフェスティバル2005」も大盛況だった。戦前、飛行船ツェッペリン号が土浦に飛来した際、乗員に振舞われたというカレーを、当時のレシピどおり再現した『ツェッペリンカレー』や、土浦の特産物であるレンコンをふんだんに使用した『レンコンカレー』等、ユニークな特色を持つ土浦産オリジナルカレーが多数開発されており、これからの展開が楽しみである。
建築設計事務所	民間の事業が多くなっている。	

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	農業関係者	県南の中でもニュータウンの様な所は、人も多く、物も売れているようだ。しかし、売れているのは安価な商品が多い。農村部では、パートや臨時雇用者が多いため、ボーナスによる消費拡大も期待できない。
	製造業（食品）	都市銀行・地方銀行ともに、融資に積極的になってきている。
	製造業（食品）	つくばエクスプレス開業により、筑波山に通常の何倍も観光客が訪れているようだが、予想以上の人出にサービスが行き届かなかったり、サービスそのものに問題がある場合もあるようだ。このことが筑波山だけでなく、つくば市や茨城県の観光にも悪い印象を与えたとしたら由々しいことである。早急に改善対策を講じる必要があると思う。
	製造業（食品）	東京周辺では好景気と聞いているが、県南地区ではそのような兆しは感じられない。
	製造業（食品）	人材派遣会社から、引き合いの電話が多い。
	製造業（窯業・土石製品）	取引企業の話では、鉄材関係製品での値上げ要請が弱まったようだ。
	製造業（コンクリート製造業）	原油を始めとする原材料価格が高止まりしていて、先行きの見通しが不透明である。
	非製造業（建設業）	今年1年（H17.1～12月）を振り返ると、受注量が昨年より15%減となり、5年連続のマイナスとなった。公共工事の予算が年々縮小されている中で、民間工事へも手を広げたいと思っているが、取引企業20社のうち、来年設備投資に着手すると発言しているのは3社程度しかない。景気の支えとなる株価が上昇傾向にあることから、今後の景気回復に期待したい。
	非製造業（建設業）	忘年会シーズンのため、近くの飲食店は賑やかである。
	非製造業（建設業）	買物の仕方を見ていると、高額商品でもボンボンとカゴに入れていた人を見かける。消費者心理も以前とは少し違うように感じる。
非製造業（金融業）	つくばエクスプレスの駅周辺では、局地的に宅地取引が活発化している。投資目的の不動産購入等も見られるようになってきた。	
雇用 関連	雇用相談員	機械製造業においては、輸出が好調で1～2年先の見通しはきくが、それ以降については不安感があるようだ。バブル景気以降の苦い経験による学習効果がありすぎて、企業経営者は過剰に不安感を持っており、求人においても正社員は控えて、期間工や派遣社員に頼っている。経営者はあまり慎重になり過ぎず、もっと自信を持つべきだと思う。
	求人広告	高額商品を購入する際、躊躇わない人が増えているような気がする。
	公共職業安定所	求人募集広告を出しても反応がないと数社から話があった。
	学校就業関係者	雇用環境が改善し、求職者が減少傾向なので、半年後くらいには末端でも景気回復感を感じられるかもしれない。

(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	市町村合併により、幾分大らかな気分になった消費者もいるようだが、増税を懸念し将来を不安視する面もあるようだ。
	スーパー	商品の1品単価は下落傾向にある。品質が良いものや美味しいものであっても、価格的に高いものは売りづらくなっている。同じ商品であれば、安いものが圧倒的に売れている。売れ筋が安価品中心になると、当然値入りが薄くなり、店舗運営が逼迫する。人員調整等のコストカットを断行していかざるを得ない。
	スーパー	調査時点で株価は15,000円を超えており、一部には来年にも20,000円台に回復するという声もある。
	コンビニエンスストア	コンビニエンスストアでは、固定客確保のため、高齢化に対応した商売を展開している。実際に高齢者の認知度や購買額も上がってきている。
	家電販売店	客の購買意欲が上がらない。
	衣料品専門店	周辺では、液晶テレビを購入する家庭が増えている。
	ガソリンスタンド	地元のガソリンスタンドが11月末で閉店した。元売子会社やホームセンター等の安値販売に対して、中小のスタンドが対抗するのは難しい。この「仁義なき戦い」は、元売メーカーの戦略ではないかと勘繰りたくなる。
	洋食食堂	新規開店の店舗が増加している。工事中の店も数箇所あり、人の流れも増えたように感じる。
	和食食堂	飲食店の生き残りには、スケールメリットの追求とヒットメニューの開発が大きな課題である。
	和食レストラン	外食の回数が減っているといわれるが、法事や七五三等の催事の際は、必ず外食するという人も多い。財布のヒモが固いといっても、特別な機会には使っているようだ。
	都市型ホテル	都心を中心とした景気は良くなると思うが、地方で好況感がでるのはまだまだ先ではないか。商業施設の大型化や企業工場の閉鎖等、都心と相反する現象が進行しているのが気になる。
	旅行代理店	自社の求人の動きが悪い。
	タクシー運転手	客から景気の良い話を全く聞かない。
	タクシー運転手	昼間の様子にはあまり変化を感じないが、夜間の飲食店の様子は昨年よりやや良くなっているように思う。企業の景気が僅かながら改善しているようなので、忘年会等の客の需要増を期待している。
	ゲームセンター	人気のあったカードゲーム機の設置台数や酒類が増え、ますます競合が拡大していくと危惧される。
	クリーニング店	固定客以外からの仕事が全くない。
建築設計事務所	つくばエクスプレスの影響が大きく、マンションの建設が加速すると共に、購買意欲も強くなっている。	
企 業 関 連	農業関係者	忘年会の回数が減少した。
	製造業（食品）	冬季ボーナスが支給されたが、前年の冬に比べるとかなり減った。
	製造業（印刷業）	先日、得意先の不動産業者が業績悪化を苦に自殺した。「買物便利な好立地」をチャッチフレ-ズにして開発した物件の周辺から、大手スーパーが2社相次いで撤退してしまい、思うように建売住宅が売れなかったことが、大きな原因と思われる。このようなことが起こらないよう、1日も早くデフレを脱却し、かつての半分でも良いから好景気になって欲しいと切望している。
	製造業（石材業）	宅配便の短期バイトをしている知人の話では、今年は昨年より歳暮の取扱数が多いらしい。
	製造業（金属製品）	地元の飲食店では、忘年会の予約が結構入っており、以前に比べ多少余裕が感じられる。
製造業（印刷業）	つくばエクスプレス開業により東京とのアクセスが良くなったため、沿線の県南～県西地区では、マンション建設や一戸建ての分譲等が多数計画されている。	

(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	非製造業（金融業）	つくばエクスプレス開業による波及効果への期待感はある。しかし、実際の効果は見当たらず、沿線からの距離ハンディキャップが感じられる。
	非製造業（不動産業）	株価等も上昇し、世間のムードが景気上昇を予感させる。
	非製造業（広告業）	高品質・高価格の商品が売れているようだ。購入基準が価格だけだった頃に比べて、消費傾向は変わってきているのではないか。
	非製造業（コンサルタント業）	周辺の飲食店では閑古鳥が鳴いている。巷で言うように、景気が回復したとはとても思えない。
雇用 関連	人材派遣業	企業からの求人が増加する一方で、派遣可能な人材を見つけるのが難しくなっている。他にもっと良い仕事があるのか、現在の仕事に満足しているのだろう。
	求人広告	最近、求職者の応募が少なくなっている。
	学校就業関係者	ガソリン価格が下がってきたので、物流業界もこれから景気が上向くのではないか。